

第二十條 第十八條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課ス
ルコトアルヘシ

ピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞踊、歌劇、邦樂、音樂理論、
指揮法、音樂史、外國語、英語、獨語、佛語又ハ伊語、國文學、外
國文學、美學、音聲學、音響學

器樂部ニ於テ管樂又ハ絃樂ヲ修ムル者ニハ管絃樂合奏ヲ聲樂部ヲ
修ムル者ニハ合唱、歌劇ヲ課ス

第七章 入 學

第二十六條 入學志願者ハ左ノ書類ニ檢定料金五圓ヲ添ヘ差出スヘ
シ

一 入學願書

一 履歷書

一 卒業證明書又ハ修了證明書

一 薦學書（甲種師範科ニ限ル）

一 戸籍謄本（戸籍抄本ヲ以テ代フルコトアルベシ）

本科又ハ邦樂科卒業者ニシテ研究科ニ入學セント欲スル者ハ入學
願書ノ外前項ノ書類ヲ差出スニ及ハス又檢定料ヲ納付スルニ及ハ
ス

第十七條第三項ニ依リ入學ヲ志願スル者ハ別ニ檢定料金五圓ヲ納
付スヘシ

既納ノ檢定料ハ如何ナル場合ニモ之ヲ返付セス

第十章 試業、進級、卒業

第三十七條 試業ハ每學年末之ヲ行フ

第三十八條 本科及邦樂科生徒ハ三學年修業シタル後ニアラサレハ

卒業試業ヲ受クルコトヲ得ス

第三十九條 試業ノ成績ハ點數ヲ以テ評定ス

本科聲樂部ノ唱歌、同器樂部ノ專修器樂、同作曲部ノ音樂理論、
師範科ノ唱歌及器樂、邦樂科ノ能樂又ハ絃曲、豫科聲樂部志望者
ノ唱歌、同器樂部志望者ノ志望器樂、同作曲部志望者ノ音樂理
論、研究科聲樂部ノ唱歌、同器樂部ノ器樂、同作曲部ノ音樂理論
及同邦樂部ノ能樂又ハ絃曲ハ二百點ヲ以テ滿點トシ百二十點以上
ヲ合格トス其ノ他ノ學科目ハ一百點ヲ以テ滿點トシ五十點以上ヲ
合格トス

（東京音樂學校諸規則 自昭和十四年至昭和十五年 六（一五頁）

（五）昭和十六年度〜二十年終戦

昭和十六年〜十七年

十六年十二月「研究科臨時學則ヲ定ム」。これは「二覽」の學則全体
の最後に追加され記載されている。

研究科臨時學則

第一條 昭和十六年度ニ於テ卒業スヘキ者ヲ入學セシムル爲一月一
日ヲ始期トシ十一月三十一日ヲ終期トスル學年ノ研究科ヲ臨時ニ
設ク

第二條 前條ノ學年ハ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 一月一日ヨリ三月三十一日

第二學期 四月一日ヨリ九月十日

第三學期 九月十一日ヨリ十二月三十一日

第三條 第一條ノ研究科ニ在學スル者ノ授業料

徴收ハ左ノ區分ニ依ル

第一學期 金拾五圓

第二學期 金二拾圓

第三學期 金拾五圓

第四條 本學則ニ規定スル以外ノ事項ニ付テハ本校學則中研究科ニ關スル規定ヲ適用ス

付 則

本學則ハ昭和十六年十二月二十六日ヨリ施行ス

〔東京音樂學校一覽 自昭和十六年至昭和十七年〕七二―七三頁

十七年一月から二月にかけて、甲種師範科の修業年限を改正する手続きが進められ、四月一日より施行された。

音庶第四號

本校規程中改正ノ件上申

東京音樂學校規程（明治四拾貳年四月廿九日文部省令第十三號、昭和拾五年五月二日改正）中別紙ノ通御改正相成度此段上申候也

昭和拾七年一月拾七日

東京音樂學校長 乘 杉 嘉 壽印

文部大臣 橋 田 邦 彦 殿

東京音樂學校規程中左ノ通改正ス

一、第六條中「甲種師範科ニ在リテハ三箇年、」ヲ「甲種師範科ニ

在リテハ三箇年及四箇年、」ニ改ム

一、第七條 師範科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ

學科目	科學年				修身	唱歌	器樂	音樂理論	指揮法	音樂史	美學	音聲學	音響學	教育學	音樂教授法	國語	外國語	體操	計
	第一學年	第二學年	第三學年	修業年限三箇年ノ甲種師範科															
第一學年	一	一	一	一	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	二	二三
第二學年	一	一	一	一	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	二	二三
第三學年	一	一	一	一	六	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	三	二	二一
第一學年	一	一	一	一	六	四	二	二	二	二	二	一	二	二	二	二	三	二	二五
第二學年	一	一	一	一	六	五	二	二	一	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二五
第三學年	一	一	一	一	六	五	二	二	二	一	二	一	二	一	二	二	二	二	二三
第四學年	一	一	一	一	六	四	三	二	二	二	二	二	二	二	一	三	二	二	二四
師乙種	一	一	一	一	一〇	三	二	二	二	二	二	二	二	二	一	三	一	二	二三

修業年限四箇年ノ甲種師範科第四學年第三學期ニ於テハ授業練習ヲ行フ隨意科目トシテ修業年限三箇年ノ甲種師範科生徒ニハオルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語、修業年限四箇年ノ甲種師範科生徒ニハ英語、獨語、佛語、伊語 ヲ授クルコトヲ得

附 則

本規程ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

音庶第五號

學則中改正ノ件上申

東京音樂學校規程（明治四拾貳年四月廿九日文部省令第十三號昭和十五年五月二日改正）中改正ノ件別途上申致候處御改正ノ上ハ學則（昭和十五年五月二日改正）中別紙ノ通改正致度ニ付御許可相成度此段上申候也

昭和十七年一月十七日

東京音樂學校長 乘 杉 嘉 壽印

文部大臣 橋 田 邦 彦 殿

東京音樂學校學則中左ノ通改正ス

第八條 師範科ヲ分チテ甲種師範科及乙種師範科トス

第九條 師範科ノ修業年限ハ甲種師範科ニ在リテハ三箇年及四箇年、乙種師範科ニ在リテハ一箇年トス

第十條 甲種師範科、乙種師範科ノ學科目左ノ如シ

修業年限三箇年ノ甲種師範科 修身、唱歌、ピアノ、音樂理論、音樂史、教育

學、音樂教授法、國語、外國語、體操、

修業年限四箇年ノ甲種師範科 修身、唱歌、ピアノ、オルガン、ヴァイオリ

ン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂合奏、打

樂器、邦樂、音樂理論、指揮法、音樂史、美學、音聲學、音

響學、教育學、音樂教授法、國語、外國語、體操、

乙種師範科 修身、唱歌、オルガン又ハピアノ、音樂理論、音樂教授法、國語、體操、

各學科目ノ毎學年配當並毎週教授時數左ノ如シ

學科目	科學年				修業年限三箇年ノ甲種師範科	修業年限四箇年ノ甲種師範科	乙種師範科
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一	一	一	一	一
唱歌	六	六	六	六	六	六	一〇
器樂	二	二	二	四	五	五	三
音樂理論	二	二	二	二	二	二	二
指揮法	一	一	一	一	一	一	一
音樂史	二	二	二	二	二	二	二
美學	一	一	一	一	一	一	一
音聲學	一	一	一	一	一	一	一
音響學	一	一	一	一	一	一	一
教育學	二	二	二	二	二	二	二
音樂教授法	一	一	一	一	一	一	一
國語	三	三	三	二	二	二	三
外國語	三	三	三	二	二	二	三
體操	二	二	二	二	二	二	二
計	二三	二三	二二	二五	二五	二三	二二

修業年限四箇年ノ甲種師範科第四學年第三學期ニ於テハ授業練習ヲ行フ

甲種師範科生徒ニシテ國語科教員志望ノ者ニハ別ニ國語及漢文一週五時間ヲ課ス

第十一條 第十條一項ノ學科目ノ外隨意科目トシテ修業年限三箇年

ノ甲種師範科ニ在リテハオルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲樂、音響學、英語、獨語、佛語、伊語、修業年限四箇年ノ甲種師範科ニ在リテハ英語、獨語、佛語、伊語ヲ課スルコトアルヘシ

附 則

本學則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

改正理由

國民學校制度ノ制定並師範學校ノ機構改革ニ即應シ優秀ナル教員ヲ養成センガタメ音樂學修上ノ必要ニヨリ甲種師範科ノ修業年限ヲ一箇年延長シ且之ニ伴フ學科目毎週授業時數ノ規定ヲ新ニ設クル要アルニ由ル

尙修業年限三箇年ノ甲種師範科ヲ存置シタルハ三年制ニ依ルモノノ最終ノ卒業年度ト四年制ニ依ルモノノ最初ノ卒業年度トノ間ニ一箇年間教員無配當ノ年度ナカラシムルタメ昭和十七年度ニ限り從來ノ甲種師範科ヘモ生徒ヲ入學セシメントスルモノナリ

音庶第七號

昭和十七年一月廿日

東京音樂學校長 乘 杉 嘉 壽印

文部省專門學務局長 永 井 浩 殿

本月十七日付音庶第四號並第五號ヲ以テ文部大臣宛本校規程並學則中甲種師範科ニ關スル規定改正認可ノ件申請致置候處右ハ國民學校

制度ノ創設並府縣師範學校ノ機構改善ニ伴ヒ其ノ内容及分量ニ於テ一大躍進ヲ見タル音樂科ノ教育ヲ擔任スベキ教員ノ養成ニ關シ速カニ一大改善ヲ加フベキノ頗ル緊要ナルハ申迄モ無之輒近長足ノ進歩ヲ見タル中等諸學校ノ音樂科ニ於テモ現制ノ三箇年程度ノ甲種師範科ノ教員ヲ以テシテハ到底之ガ完全ナル教育ヲ養成スルコト至難トセル所ニ有之旁々此際速ニ右甲種師範科ノ年限ヲ延長シ且ソノ教育内容ニ一大刷新ヲ企圖スルハ現下屹緊ノ要務ト存候且又年々本校卒業生ノ教員配當ノ需給關係ニ於テ異常ナル不都合ヲ感ジツツアル現狀ニ徴シ四ヶ年ニ延長ノ曉現制ニ依ルモノ、最終卒業年度ト新制ニ依ルモノ、最初ノ卒業年度ノ間ニ一箇年無配當年度ノ生ゼザル様致度ニ付來ル十七年度ニ於テハ新舊並行ニ二學級ヲ募集致度時恰モ舊制ノ新入生募集中ニ付可成同時ニ右入學試験ヲ實施致度存候間可相成速ニ右改正御認可相成様御配意ヲ度得此段特ニ願上候尙右ニ學級募集ニ付初年度（十七年度）ハ特ニ經費増配ヲ必要トセザル見込ニ付御含相成度

東音專二號 裁決定三月九日 發送3月18日

昭和十七年二月九日起案

省 令 案

東京音樂學校規程中改正ノ件

文部省令第九號

東京音樂學校規程中左ノ通改正ス

十七年三月十八日

文部大臣

第六條中「甲種師範科ニ在リテハ三箇年、」ヲ「甲種師範科ニ在リテハ三箇年及四箇年、」ニ改ム

第七條 師範科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ

學科目	科學年				修身	唱歌	器樂	音樂理論	指揮法	音樂史	美學	音聲學	音響學	教育學	音樂教授法	國語	外國語	體操	計
	第一學年	第二學年	第三學年	修業年限三箇年ノ甲種師範科															
第一學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第二學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第三學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第一學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第二學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第三學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
第四學年	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
乙種師範科	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

修業年限四箇年ノ甲種師範科第四學年第三學期ニ於テハ授業練習ヲ行フ隨意科目トシテ修業年限三箇年ノ甲種師範科生徒ニハオルガ

ン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂、合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語、修業年限四箇年ノ甲種師範科生徒ニハ英語、獨語、佛語、伊語ヲ授クルコトヲ得

附則

本規程ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(案ノ一ノミ發送ノコト)

案ノ二

東京音樂學校

昭和十七年一月十七日音庶第五號申請學則中改正ノ件許可ス

十七年三月十八日

文部大臣

(省令官報掲載日ト同日附ノコト)

(備考)

東京音樂學校規程改正ニ基キ學則ヲ改正セントスルモノナリ

改正ノ要旨

國民學校制度ノ制定並師範學校ノ機構改革ニ即應シ優秀ナル教員ヲ養成センガ爲音樂學修上ノ必要ニヨリ甲種師範科ノ修業年限ヲ一箇年延長シ且之ニ伴フ學科目毎週授業時數ノ改正ヲ行ハントスルモノナリ

(手書き)

昭和十七年～十八年

前述したように『東京音楽學校一覽』は「自昭和十六年至昭和十七年」をもって刊行を終える。ただし発行は昭和十八年三月二十五日であり、「沿革略」の項は十七年八月まで記載され、「學則」などは十七年九月改正分まで記載されている。

十七年四月、前年度末の文書に見たとおり「甲種師範科ニ在リテハ三箇年」を「甲種師範科ニ在リテハ三箇年及四箇年」に改め、師範科の学科目と毎週教授時間数を改正した。また六月には試業の成績に関する學則第三十九條を改正する。さらに九月には器樂の専攻樂器の種類を従来より増やし、學則第三條、第六條、第十四條、第十七條に「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」と加えた。

これらの改正に関する文書と『東京音楽學校一覽 自昭和十六年至昭和十七年』の學則全体を掲載する。

音庶第二二號

本校學則中改正ノ件上申

東京音楽學校學則中左記ノ通り改正致度ニ付御許可相成度此段上申候也

昭和十七年五月十三日

東京音楽學校長 乗杉嘉壽印

文部大臣 橋田邦彦殿

記

學則中改正案

一、第三十九條第二項ヲ左ノ如ク改ム

「點數ハ百點ヲ以テ滿點トシ五十點以上ヲ合格トス」

理由

從來一部學科目ノ試業成績ハ二百點滿點ヲ以テ評定シ來レル處此評定法ニ缺陷アルヲ認メ他學科目ト同様二百點滿點ヲ採用セントスルニ依ル

(東京音楽學校規則 第二冊 国立公文書館蔵)

(和文タイプ)

東音專四號 裁決定六月三日 發送6月4日

昭和十七年五月十八日起案

東京音楽學校學則中改正ノ件

指令案

東京音楽學校

昭和十七年五月十三日音庶第一一二號申請學則中改正ノ件許可ス

年月日

文部大臣

(備考)

○改正ノ要旨

從來一部學科目ノ成績ハ二百點滿點ヲ以テ評定シ來レル處右評定法ニ缺陷アルヲ認メ他學科目ト同様二百點滿點ヲ採用セントスルモノナリ

○改正ノ箇所

第三十九條第二項中「二百點ヲ以テ滿點トシ百二十點以上ヲ合格トス」ヲ

「點數ハ百點ヲ以テ滿點トシ五十點以上ヲ合格トス」ニ改正セン
(後略。手書き)

この文書の後「案ノ二」として「評議員會中改正ノ件」が含まれる。
こちらは三を参照。

音庶第一五六號

本校學則中改正ノ件

本校學則中別紙ノ通改正致度ニ付御許可相成度此段上申候也

昭和十七年六月廿三日

東京音楽學校長 乗 杉 嘉 壽印

文部大臣 橋 田 邦 彦 殿

東京音楽學校學則中左ノ通改正ス

第三條 器樂部ノ項中「ハープ」ノ下ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ

使用スル樂器、」ヲ加フ

第六條 第二項中「ハープ」ヲ「ハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使

用スル樂器、」ニ改ム

第十四條 中「ハープ」ノ下ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル

樂器、」ヲ加フ

第十六條ノ一表中

本科器樂部ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、
バスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器
又ハハープ志望者

ヲ

本科器樂部ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、
バスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器
又ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器志望者

ニ改ム

第十六條ノ二中「ハープ」ノ下ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用ス
ル樂器」ヲ加フ

第十七條 第二項第三號ヲ「器樂 第十四條規定ノ器樂」ニ改ム

第十八條中「及邦樂部」ヲ「教育部及邦樂部」ニ改メ「器樂部

器樂」ノ項中「ハープ」ノ下ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル

樂器」ヲ、「作曲部音樂理論」ノ項ノ次ニ「教育部 唱歌、器樂、

音樂理論」ヲ加フ

第廿一條中「又ハ作曲部」ヲ「作曲部又ハ教育部」ニ、「本科卒
業者」ヲ「本科又ハ甲種師範科卒業業者」ニ改ム

同條但書中「本科」ノ下ニ「甲種師範科」ヲ加フ

附 則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

音庶第一五七號

本校規程中改正ノ件

本校規程中別紙ノ通り改正相成度此段上申候也

昭和十七年六月二十三日

東京音楽學校校長 乗 杉 嘉 壽印

文部大臣 橋田邦彦 殿

東京音楽學校規程中左ノ通改正ス

第三條第三項中「ハープ、」ヲ「ハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器、」ニ改ム

第九條表中

本科器樂部ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、バツスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ志望者

ヲ

本科器樂部ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、バツスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器志望者

ニ、同條第四項中「及ハープ」ヲ「ハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ニ改ム

第十三條第二項中「作曲部」ノ下ニ「教育部」ヲ加フ

第十四條第二項器樂部ノ項中「ハープ」ノ下ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ヲ、同條同項中「作曲部 音樂理論」ノ次ニ「教育部 唱歌、器樂、音樂理論」ヲ加フ

第十六條第一項中「及作曲部」ヲ「作曲部及教育部」ニ改メ、同條同項中「本科」ノ下ニ「又ハ甲種師範科」ヲ加フ

同條第二項中「本科」ノ下ニ「甲種師範科」ヲ加フ

附 則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

改正理由

一、輓近管絃樂及吹奏樂ノ向上發展ニ伴ヒ使用スベキ樂器ノ種類増加シ將來モ亦遂次増加スベキハ必要ナルヲ以テ從來規定セラレ居ル樂器ノ外ニ「其他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ナル概括の規定ヲ加ヘ以テ音樂教育上遺憾ナカラシメントス

一、從來甲種師範科卒業生ハ研究科ニ入學スルコトヲ得サリシモ同科卒業生中特定學科ニ特ニ秀テタルモノニ對シ其ノ特技ヲ鍊磨セシムルタメ研究科ニ入學ノ途ヲ開カントス

一、研究科ニ新ニ教育部ヲ設ケ各科（邦樂科ヲ除ク）ノ卒業生ヲ之ニ入學セシメ音樂教育ノ理論及實際ヲ研究セシムルト共ニ師範科出身ノモノニ對シ再教育ヲ施サントス

附 記

甲種師範科卒業生ノ研究科入學ハ服務義務ヲ終リタル者ニ限ル

第三條第三項

隨意科目トシテ獨唱、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、バツスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器、ハ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器、歌劇、邦樂、作曲法、指揮法、美學、音聲學、音樂學、英語、獨語、佛語、及伊語ヲ授クルコトヲ得

第九條第三項及第四項

豫科ノ學科目及每週教授時數左ノ如シ

學科目	部
志望者	本科聲樂部
志望者	本科器樂部 ピアノ
志望者	本科器樂部 オルガン又ハ セイオリン又ハ
及吹奏樂ニ使用スル樂器志望者	本科器樂部 フリユート、 バリネット、 ローンボーン、 トランペット、 打樂器又ハ 其ノ他管絃樂器
	本科作曲部 志望者

〔学科目および毎週授業時数の記載なし〕

隨意科目トシテ獨唱、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、バツスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器及ハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スラ授クルコトヲ得ル樂器

第十三條

研究科ヲ別チテ聲樂部、器樂部、作曲部、教育部及邦樂部トス

第十四條

研究科ノ學科目左ノ如シ

聲樂部
唱歌

器樂部 器樂
ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バツーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打楽器又ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器

作曲部
音樂理論

教育部 唱歌、器樂、音樂理論

邦樂部 能樂又ハ絃曲（長唄）

第十六條

研究科ノ聲樂部、器樂部、作曲部及教育
部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ

本科又ハ甲種師範科卒業者、邦樂部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ邦樂科卒業者ニ限ル

本科、甲種師範科又ハ邦樂科卒業者ニ非スシテ試験ニ依リ之ト同等以上ノ資格アリト認メタル者ニハ研究科ニ屬スル學科目ノ學習ヲ許可スルコトヲ得

〔和文タイプ〕

〔東京音樂學校規則 第二冊〕 国立公文書館蔵

東音專七號 裁決定九月十五日 發送9月23日

昭和十七年七月七日起案

省令案

東京音樂學校規程中改正ノ件

文部省令第
號

東京音樂學校規程中左ノ通改正ス

年
月
日

文部大臣

第三條第三項中「ハープ、」ヲ「ハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器、」ニ改ム

第九條表中

本科器樂部ダブルベース、フリューート、オーボエ、クラリネット、バズーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器
又ハハーブ志望者

ヲ

本科器樂部ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネット、バズーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器志望者

ニ、同條第四項中「及ハハープ」ヲ「ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ニ改ム

第十三條第二項中「作曲部」ノ次ニ「教育部」ヲ加フ

第十四條第二項中「ハープ」ノ次ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ヲ、「作曲部 音樂理論」ノ次ニ「教育部 唱歌、器樂、音樂理論」ヲ加フ

第十六條第一項中「及作曲部」ヲ「作曲部及教育部」ニ改メ、

「本科」ノ次ニ「又ハ甲種師範科」ヲ加フ

同條第二項中「本科」ノ次ニ「甲種師範科」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

案ノ二

東京音樂學校

昭和十七年六月廿三日音庶第一五六號申請學則中改正ノ件許可ス

年月日

文部大臣

(備考)

○改正ノ要旨

一、軌近管絃樂及吹奏樂ノ發展進歩ニ伴ヒ使用スベキ樂器ノ種類増加シ將來ニ於テモ遂次増加スベキヲ以テ從來規定セラレ居ル樂器ノ外ニ「其他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ナル概括的規定ヲ加ヘ以テ音樂教育上遺憾ナカラシメントス

一、從來師範科卒業者ニハ研究科ニ入學ノ途ナカリシモ今回新ニ「教育部」ヲ設ケ甲種師範科卒業者ヲ之ニ進學セシムルト同時ニ同科卒業者中特ニ特定學科ニ秀テタルモノニ對シソノ特技ヲ鍊磨セシムル爲邦樂部ヲ除ク研究科各部ニ入學ノ途ヲヒラキ師範科出身者ニ對シ再教育ノ機會ヲ與ヘントスルモノナリ

一、甲種師範科卒業者ノ研究科入學ハ服務義務ヲ終リタルモノニ限ル

○主ナル改正ノ箇處

一、第三條、第九條、第十四條中「ハープ」ノ次ニ「其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器」ヲ加フ

二、第十三條中「作曲部」ノ次ニ「教育部」ヲ加ヘ第十四條中「作曲部」ノ次ニ「教育部 唱歌、器樂、音樂理論」ヲ加フ

三、第十六條中「作曲部」ノ次ニ「教育部」ヲ加ヘ「本科」ノ次ニ「又ハ甲種師範科」ヲ加フ同條第二項「本科」ノ次ニ「甲種師範科」ヲ加フ

(東京音樂學校規則 第二冊 国立公文書館蔵)

(手書き)

次の文書は日付や文書番号などの記載がないが、文部省に提出された資料と思われる。昭和十七年のところに綴じられているのでここに掲げ

ておく。

音楽技術ノ授業上ノ特殊性

一、音楽ノ技術教育ハ其特質上學級授業ヲ施ス餘地少ク主トシテ個人指導ニ依リ之ヲ行ハザルベカラズ即唱歌及器樂ニ於テハ生徒二人乃至三人ヲ一組トスル若干數ノ組ニ分チ各組一名宛ノ教官之ヲ擔當シ一時限ノ授業ヲ行ヒ又一見多數ノ生徒ヲ對象トスルコト可能ノ如ク思惟セラル、音楽理論ニ於テスラ其實習、作曲ノ指導ハ個別的ニ徹底シタル演習指導ヲ行フニ非ザレバ效果ヲ舉グル能ハザルヲ以テ生徒ヲ十五人程ノ組ニ分チ授業ヲ行ヒ居レリ

一、前記ノ如ク音楽ノ技術習得ハ最モ徹底シタル個人指導ヲ主體トスルモ合唱、合奏ノ授業ハ學級授業ノ外各學年各科ニ拘ラズ生徒ノ一部又ハ全部ヲ合同シテ行ヒ或ハ又部分練習ノタメ生徒ヲ技術上ノ必要ニ應ジ(例ヘバ最高音中音低音等聲ノ區別ニ依リ又樂器ノ性能ニ應ジ)幾組カニ分ケテ行フ等授業方法ハ極メテ複雑多岐ナリ

一、音楽ハ其ノ技術ヲ練磨スル上ニ於テ正規ノ授業以外必ズ相當時間反復練習スルヲ要シ平均毎日八時間以上ノ自修ヲ爲スニ非ズンバ授業ノ進行ハ殆ンド不可能ニ近ク其ノ練習ハ授業ノ延長トイフモ敢テ過言ニ非ザルナリサレバ本校備付ノピアノ(約百四十臺)ノ如キハ午前六時ヨリ午後九時迄ノ間授業以外常ニ練習ノタメ使用セラレ居リ然モ尙設備ノ不足ヲ感ズル狀況ニアリ

(和文タイプ)

(「東京音楽學校規則 第二冊」国立公文書館蔵)

第四 學 則

昭和十五年五月二日改正
昭和十七年三月十八日改正
昭和十七年九月廿三日改正

第一章 總 則

第一條 本校ハ音楽ノ教授及攻究ヲナシ兼テ音楽教員ヲ養成スル所トス

第二條 本校ノ學科ハ本科、師範科及邦樂科トス

前項ノ外豫科及研究科ヲ置ク

第二章 本 科

第三條 本科ヲ分チテ聲樂部、器樂部及作曲部トス

其ノ學科目左ノ如シ

聲樂部 修身、唱歌、音楽理論、音楽史、國語、外國語、英語、獨語、佛語又ハ伊語、體操

器樂部 修身、器樂(ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブルベース、フルーイト、オーボエ、クラリネット、バスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器、器樂合奏、音楽理論、音楽史、國語、外國語、英語、獨語、佛語又ハ伊語、體操

作曲部 修身、唱歌、器樂、ピアノ、器樂合奏、音楽理論、音楽史、國語、外國語 英語、獨語、佛語又ハ伊語、體操

第四條 本科ノ修業年限ハ三箇年以上五箇年以内トス

第五條 本科ノ各學科目ノ毎學年配當並毎週教授時數左ノ如シ

學年	學科目	修身	唱歌	器樂	器樂合奏	音樂理論	音樂史	國語	外國語	體操	計
第一學年	聲樂部	一	七	一	一	二	二	三	三	二	二〇
第二學年	聲樂部	一	七	一	一	二	二	三	三	二	二〇
第三學年	聲樂部	一	七	一	一	二	二	三	三	二	一八
第一學年	器樂部	一	四	一	二	二	二	三	三	二	二一
第二學年	器樂部	一	四	一	二	二	二	三	三	二	二一
第三學年	器樂部	一	四	一	二	二	二	三	三	二	一九
第一學年	作曲部	一	四	一	二	三	二	四	三	二	二三
第二學年	作曲部	一	四	一	二	三	二	四	三	二	二三
第三學年	作曲部	一	四	一	二	三	二	四	三	二	二三

卒業ノ後師範學校、中學校、高等女學校教員無試験檢定ヲ得ント
欲スル者ハ前表ノ學科目ノ外左ノ學科目ヲ修了スルコトヲ要ス

學年	學科目	聲樂部	器樂部	作曲部
第一學年	ピアノ	二	一	一
第二學年	ピアノ	一	一	一
第三學年	ピアノ	一	一	一
第一學年	ピアノ専修スル者	二	一	一
第二學年	ピアノ専修スル者	一	一	一
第三學年	ピアノ専修スル者	一	一	一
第一學年	ピアノ以外ノ樂器ヲ専修スル者	二	一	一
第二學年	ピアノ以外ノ樂器ヲ専修スル者	一	一	一
第三學年	ピアノ以外ノ樂器ヲ専修スル者	一	一	一

第六條 第三條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

獨唱、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バスーン、

ホーン、トランペット、打楽器、ハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ
使用スル樂器、歌劇、邦樂、作曲法、指揮法、美學、音聲學、音
響學、英語、獨語、佛語、伊語

豫科卒業者ト雖モ成業ノ見込ナキ者ハ入學ヲ許可セス

第三章ノ一 師範科

第八條 師範科ヲ分チテ甲種師範科及乙種師範科トス

第九條 師範科ノ修業年限ハ甲種師範科ニ在リテハ三箇年及四箇
年、乙種師範科ニ在リテハ一箇年トス

第十條 甲種師範科、乙種師範科ノ學科目左ノ如シ

修業年限三箇年ノ甲種師範科 修身、唱歌、ピアノ、音樂理論、

音樂史、教育學、音樂教授法、國語、外國語、體操

修業年限四箇年ノ甲種師範科 修身、唱歌、ピアノ、オルガン、

ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃

樂合奏、打楽器、邦樂、音樂理論、指揮法、音樂史、美學、

音聲學、音響學、教育學、音樂教授法、國語、外國語、體操

乙種師範科 修身、唱歌、オルガン又ハピアノ、音樂理論、音樂

教授法、國語、體操

各學科目ノ毎學年配當並毎週教授時數左ノ如シ

學科目	科學年				乙種師範科
	第一學年	第二學年	第三學年	第四學年	
修業年限三箇年ノ甲種師範科	一	一	一	一	一
修業年限四箇年ノ甲種師範科	一	一	一	一	一

修 身	唱 歌	器 樂	音 樂 理 論	指 揮 法	音 樂 史	美 學	音 聲 學	音 響 學	教 育 學	音 樂 教 授 法	國 語	外 國 語	體 操	計
一	六	二	二	一	二	一	一	一	二	一	三	三	二	二三
一	六	二	二	一	二	一	一	一	二	一	三	三	二	二三
一	六	二	二	一	一	一	一	一	一	二	三	三	二	二一
一	六	四	二	一	二	一	一	一	二	一	二	三	二	二五
一	六	五	二	一	二	一	一	一	二	一	二	二	二	二五
一	六	五	二	一	一	一	一	一	一	一	二	二	二	二三
一	六	四	三	一	一	二	一	一	一	一	三	二	二	二四
一	一〇	三	二	一	一	一	一	一	一	一	三	一	二	三二

修業年限四箇年ノ甲種師範科第四學年第三學期ニ於テハ授業練習ヲ行フ

甲種師範科生徒ニシテ國語科教員志望ノ者ニハ別ニ國語及漢文一週五時間ヲ課ス

第十一條 第十條第一項ノ學科目ノ外隨意科目トシテ修業年限三箇年ノ甲種師範科ニ在リテハオルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語、修業年限

四箇年ノ甲種師範科ニ在リテハ英語、獨語、佛語、伊語ヲ課スルコトアルヘシ

附 則

本學則ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條 甲種師範科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行善良ニシテ師範學校、中學校、若ハ修業年限四箇年以上ノ高等女學校ヲ卒業シ當該學校長ノ薦舉ヲ受ケタル者ニ就キ左ニ掲クル學科目ヲ行ヒ之ヲ定ム但シ女子ハ夫ナキ者ニ限ル

一 唱 歌

二 樂 典

三 器 樂

四 國 語

五 英 語

左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ前記ノ試験ニ依リ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

一 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

二 文部大臣ニ於テ一般專門學校ノ入學ニ關シ中學校又ハ高等女

學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定セラレタル者

第十三條ノ一 乙種師範科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行善良ニシテ

左ノ各號ノ一ニ該當シ且唱歌及國語ノ試験ニ合格シタル者トス但

シ女子ハ夫ナキ者ニ限ル

一 中學校卒業者

二 修業年限四箇年以上ノ高等女學校卒業者

三 專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

四 文部大臣ニ於テ一般専門學校ノ入學ニ關シ中學校又ハ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定セラレタル者

第三章ノ二 邦 樂 科

第十三條ノ二 邦樂科ノ學科目ハ修身、能樂又ハ絃曲（箏曲、長唄）、音樂理論、音樂史、國語、外國語及體操トス

第十三條ノ三 邦樂科修業年限ハ三箇年トス

第十三條ノ四 邦樂科ノ各學科目ノ每學年配當竝毎週教授時數左ノ如シ

學科目	學 年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修 身	一	一	一
能樂又ハ絃曲（箏曲、長唄）	一〇	一〇	一〇
音 樂 理 論	二	二	二
音 樂 史	三	三	三
國 語	二	二	二
外 國 語	二	二	二
體 操	二〇	二〇	二〇
計	二〇	二〇	二〇

第十三條ノ五 邦樂科ニ在リテハ第十三條ノ二ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

洋樂、舞踊、美學、教育學、音聲學、音響學

第十三條ノ六 邦樂科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行善良ニシテ次ノ各號ノ一二該當シ且試験ニ合格シタル者トス但シ女子ハ夫ナキ者

二限ル

一 中學校第四學年修了者

二 高等女學校第四學年修了者

三 高等學校尋常科修了者

四 高等學校高等科入學試験ニ合格シタル者

五 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

六 文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校又ハ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定セラレタル者

前項ノ試験ハ左ノ學科目ニ付行フ

一 能樂又ハ絃曲（箏曲、長唄）

二 國 語

三 外國語

第一項ノ資格ヲ有セサル者ト雖モ特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者ハ試験ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第四章 豫 科

第十四條 豫科ノ學科目ハ修身、唱歌、器樂、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ其ノ他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器、器樂合奏、音樂理論、國語、外國語、英語、獨語、佛語又ハ伊語及體操トス

第十五條 豫科ノ修業年限ハ一箇年トス

第十六條ノ一 豫科ノ各學科目ノ毎週教授時數左ノ如シ

部	學科目	修身	唱歌	ピアノ	ピアノ以外 ノ専修器樂	器樂合奏	音樂理論	國語	外國語	體操	計
本科聲樂 部志望者	一	六	二	—	—	—	二	三	三	二	一九
本科器樂 部ピアノ 志望者	一	四	二	—	—	—	二	三	三	二	一七
本科器樂 部オルガ ン又ハセ ロン 志望者	一	四	一	—	二	二	二	三	三	二	一八
本科器樂部ダブルベース、 フリューット、オルボエ、ク ラリネット、バスーン、ト ロンボーン、打樂器又ハハ ーン其ノ他管絃樂及吹奏樂 ニ使用スル樂器	一	四	—	—	二	二	二	三	三	二	一八
本科作曲 部志望者	一	四	二	—	—	—	—	三	四	二	一九

第十六條ノ二 第十四條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ

課スルコトアルベシ

獨唱、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベー
ス、フリューット、オーボエ、クラリネット、バスーン、ホー
ン、トランペット、トロンボーン、打樂器、ハープ其ノ他管絃樂
及吹奏樂ニ使用スル樂器

第十七條 豫科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ品行善良ニシテ左ノ各號ノ

- 一 該當シ且試験ニ合格シタル者トス但シ女子ハ夫ナキ者ニ限ル
- 一 中學校第四學年修了者
- 二 高等女學校第四學年修了者

三 高等學校尋常科修了者

四 高等學校高等科入學試験ニ合格シタル者

五 専門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者

六 文部大臣ニ於テ専門學校ノ入學ニ關シ中學校又ハ高等女學校

卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定セラレタル者

前項ノ試験ハ左ノ學科目ニ付之ヲ行フ但シ本科作曲部志望者ニ就

キテハ音樂理論ヲ加フ

一 唱歌

二 樂典

三 器樂 ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブル

ベース、フリューット、オーボエ、クラリネット、バスーン、

ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器、ハープ其ノ他

管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器

四 國語

五 外國語 英語、獨語又ハ佛語

第一項ノ資格ヲ有セサル者ト雖特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者

ハ試験ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第五章 研究科

第十八條 研究科ヲ分チテ聲樂部、器樂部、作曲部、教育部及邦樂

部トス其ノ學科目左ノ如シ

聲樂部 唱 歌

器樂部 器 樂 ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダ

ブルベース、フリューット、オーボエ、クラリネ

ット、バスーン、ホーン、トランペット、ト

ロンボーン、打楽器又ハハープ其ノ他管絃樂及
吹奏樂ニ使用スル樂器

作曲部 音樂理論

教育部 唱歌、器樂、音樂理論

邦樂部 能樂又ハ絃曲（箏曲、長唄）

第十九條 研究科ノ修業年限ハ二箇年トシ授業時數ハ一學科目ニ付
毎週二時間以內トス

第二十條 第十八條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課ス
ルコトアルヘシ

ピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞蹈、歌劇、邦樂、音樂理論、
指揮法、音樂史、外國語、英語、獨語、佛語又ハ伊語、國文
學、外國文學、美學、音聲學、音響學

器樂部ニ於テ管樂又ハ絃樂ヲ修ムル者ニハ管絃樂合奏ヲ聲樂部ヲ
修ムル者ニハ合唱、歌劇ヲ課ス

第二十一條 研究科ノ聲樂部、器樂部、作曲部又ハ教育部ニ入學ヲ
許可スヘキ者ハ本科又ハ甲種師範科卒業者、邦樂部ニ入學ヲ許可
スヘキ者ハ邦樂科卒業者中學業優秀ナル者トシ女子ハ夫ナキ者ニ
限ル但シ本科甲種師範科又ハ邦樂科卒業者ニアラサルモ試験ニ依
リ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ハ入學ヲ許可スルコトアル
ヘシ

第六章 學年、學期、休業

第二十二條 學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二十三條 學期ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ九月十日ニ至ル

第二學期 九月十一日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

第三學期 一月八日ヨリ三月三十一日ニ至ル

第二十四條 休業ノ日ハ左ノ如シ

春季休業 三月二十六日ヨリ四月十日ニ至ル

夏季休業 七月十一日ヨリ九月十日ニ至ル

冬季休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日ニ至ル

祝 日

大祭 日

日曜日

本校設立記念日、十月四日

第七章 入 學

第二十五條 入學ノ期ハ學年ノ始トス

第二十六條 入學志願者ハ左ノ書類ニ檢定料五圓ヲ添ヘ差出スヘシ

一 入學願書

一 履 歷 書

一 卒業證明書又ハ修了證明書

一 薦學書（甲種師範科ニ限ル）

一 戶籍謄本（戶籍抄本ヲ以テ代フルコトアルヘシ）

本科又ハ邦樂科卒業者ニシテ研究科ニ入學セント欲スル者ハ入學
願書ノ外前項ノ書類ヲ差出スニ及ハス又檢定料ヲ納付スルニ及ハ
ス

第十七條第三項ニ依リ入學ヲ志願スル者ハ別ニ檢定料五圓ヲ納付
スヘシ

既納ノ檢定料ハ如何ナル場合ニモ之ヲ返付セス

第二十七條 入學志願者ハ學科試験ノ外身體検査及口頭試問ヲ受クルモノトス

第二十八條 入學試験ニ合格シタル者ハ假入學ヲ許シ三箇月以内資性、品行及學業成績ヲ考察シ適當ト認メタル者ニ限り本入學ヲ許可スルモノトス

假入學ヲ許可セラレタル者ハ指定ノ期限内ニ入學料金參圓ヲ納付スヘシ

既納ノ入學料ハ如何ナル場合ニモ之ヲ返付セス

第八章 誓約、保證人

第二十九條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ保證人連署ノ誓約書ヲ差出シ且宣誓ヲ爲スヘシ

第三十條 保證人ハ二人トス内一人ハ父母、後見人又ハ尊屬親、他ノ一人ハ年齢、資産共ニ保證人ノ責ニ堪ヘ東京市内又ハ其ノ附近ニ居住スル者タルヘシ但シ父母、後見人又ハ尊屬親ナキトキハ相當ノ資格アル者ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第三十一條 保證人ハ其ノ保證スル生徒ヲ監督シ之ニ關シテ一切ノ責ニ任スルモノトス

第三十二條 保證人死亡シ又ハ第三十條ノ資格ヲ失ヒタルトキハ更ニ保證人ヲ定メ誓約書ヲ差出スヘシ

第九章 缺席、休學、退學、除籍

第三十三條 生徒疾病其ノ他ノ事故ニ因リ缺課シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三日以内ニ届出ツヘシ但シ疾病七日以上ニ及フトキハ診斷書ヲ添付スヘシ

第三十四條 生徒疾病其ノ他ノ事故ニ因リ休學ヲ願出ツルトキハ當

該學年間ニ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

第三十五條 生徒疾病其ノ他ノ事故ニ因リ退學セントスルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ保證人連署ニテ願出ツヘシ

第三十六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ除籍ス

一 無届缺席三十日ヲ超ユル者

二 屢遅刻、缺席シ出席常ナラサル者

三 本科、甲種師範科又ハ邦樂科ニ於テ引續キ二回同一學年ニ止

マル者及乙種師範科又ハ豫科ヲ一箇年ニシテ卒業セサル者但シ

兵役ノ爲同一學年ニ止マル者ヲ除ク

四 前各號ニ掲ケタル者ノ外成業ノ見込ナキ者

五 所定ノ期限内ニ授業料ヲ納付セサル者

前項ニ掲ケタル場合ノ外臨機除籍ノ處置ヲナスコトアルヘシ

第十章 試業、進級、卒業

第三十七條 試業ハ每學年末之ヲ行フ

第三十八條 本科及邦樂科生徒ハ三學年修業シタル後ニアラサレハ

卒業試験ヲ受クルコトヲ得ス

第三十九條 試業ノ成績ハ點數ヲ以テ評定ス

點數ハ百點ヲ以テ滿點トシ五十點以上ヲ合格トス

第四十條 音樂技術ニ關スル試業ハ特ニ委員ヲ設ケテ之ヲ行フ

第四十一條 本科、師範科又ハ邦樂科ノ卒業試業ニ合格シタル者ニ

ハ卒業證書ヲ授與シ研究科ノ修了試業ニ合格シタル者ニハ修了證書ヲ授與ス

第四十二條 試業ニ缺席シタル者追試業ヲ願出ツルトキハ已ムヲ得サル事由アリト認メタル場合ニ限り之ヲ許可スルコトアルヘシ

第十一章 授業料

第四十三條 授業料ハ年額左ノ如シ

本科 金八十圓

邦樂科 金八十圓

豫科 金八十圓

研究科 金五十圓

第四十四條 師範科ハ授業料ヲ徴收セス

第四十五條 授業料ハ左ノ區分ニ依リ徴收ス其ノ期日ハ細則ヲ以テ之ヲ定ム

區分 本科、邦樂科、豫科 研究科

第一學期 金二十五圓 金十五圓

第二學期 金三十圓 金二十圓

第三學期 金二十五圓 金十五圓

兵役ニ服スル爲休學ノ許可ヲ得タル者ハ次學期以後休學中ノ授業料ヲ免除ス

授業料ハ前項ノ場合ヲ除クノ外休學等ノ事由ヲ以テ之ヲ免除スルコトナシ但シ第三十六條第一項第五號ニ依ル除籍者ハ此ノ限ニ在ラス

既納ノ授業料ハ如何ナル場合ニモ之ヲ返付セス

第十二章 奨励金及奨學金

第四十六條 本校生徒中品行善良學藝優秀ニシテ特別ノ事情アル者ニハ奨勵ノ爲メ一箇月金二十五圓以内ヲ給與スルコトアルヘシ

第四十七條 前項ノ奨勵金一箇月末滿ノトキハ日割ヲ以テ支給ス卒

業、修了又ハ死亡ノ月ハ全額ヲ支給シ退學ノ月ハ全部支給セス

第四十八條 左ノ各號ノ一二該當スル者ハ其ノ奨勵金ノ支給ヲ停止ス

一 疾病其ノ他已ムヲ得ザル事故ニ因リ缺席三十日ヲ超エタルトキハ其ノ翌日ヨリ缺席繼續中

二 休學中

第四十九條 奨學金ハ寄附者ノ指定ニ依リ又其ノ指定ナキモノハ學校長ノ意見ニ依リ給與シ又貸付ス

第五十條 前條ニ依リ學校長ノ意見ヲ以テ貸付スル奨學金ハ卒業後滿一箇年ヲ經過シタル月ヨリ貸付ノ月數ニ相數スル期間内ニ於テ月賦返納セシム但シ期限ニ先チ一時ニ全額又ハ一部ヲ返納スルコトヲ得

第五十一條 寄附者ノ指定ナキ奨學金ノ貸付ヲ受クル者半途退學シ又ハ退學ヲ命セラレタルトキハ既ニ支給セラレタル奨學金ヲ償還スヘシ但シ疾病、傷痍其ノ他酌量スヘキ事情ニ依ルトキハ償還スヘキ金額ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第五十二條 寄附者ノ指定ナキ奨學金ノ給與及貸付ニ付テハ第四十七條及第四十八條ヲ準用ス

第十三章 特待生

第五十三條 本科又ハ邦樂科生徒ニシテ學藝優秀品行善良ナル者ヲ特待生トス

第五十四條 特待生ハ每學年ノ始メニ於テ學校長之ヲ定ム

第五十五條 特待生ハ其ノ特待生タル期間授業料ヲ免除ス

第十四章 音樂演奏會

第五十六條 本校ハ時々音樂演奏會ヲ開催ス

第五十七條 生徒ハ本校ノ音樂演奏會ニ出演スヘキモノトス

第五十八條 生徒ハ學校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ前條ノ演奏會

以外ノ集會ニ於テ演奏ヲ爲スコトヲ得ス

第十五章 懲 戒

第五十九條 生徒非違、行爲アルトキハ學校長之ヲ懲戒ス

第六十條 懲戒ヲ分チテ譴責、停學及放校ノ三種トス

附 則

本學則ハ大正十二年五月一日ヨリ施行ス

研究科臨時學則

第一條 昭和十六年度ニ於テ卒業スヘキ者ヲ入學セシムル爲一月一日ヲ始期ト十一月三十一日ヲ終期トスル學年ノ研究科ヲ臨時ニ設ク

第二條 前條ノ學年ハ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 一月一日ヨリ三月三十一日

第二學期 四月一日ヨリ九月十日

第三學期 九月十一日ヨリ十二月三十一日

第三條 第一條ノ研究科ニ在學スル者ノ授業料

徴收ハ左ノ區分ニ依ル

第一學期 金十五圓

第二學期 金二十圓

第三學期 金十五圓

第四條 本學則ニ規定スル以外ノ事項ニ付テハ本校學則中研究科ニ關スル規定ヲ適用ス

附 則

本學則ハ昭和十六年十二月二十六日ヨリ施行ス

(「東京音樂學校一覽 自昭和十六年至昭和十七年」五一―七三頁)

昭和十八年〜十九年

昭和十八年度において規則改正が行われたことを示す文書などは見つ
かっていない。

以下に掲載する文書はすべて学内保存の『自昭和十八年度至昭和二十
年度 公文書綴 教務課』に綴られている。

① 音教第六八号 昭和十八年五月十日起案「専門學校教育刷新充實ニ關
スル件回答」

② 音教第七三三号 昭和十八年五月十四日起案「高等師範學校等ニ關スル
調査ノ件報告」

③ 音教第八八号 昭和十八年五月三十一日起案「生徒數等ニ關スル件報
告」

④ 音教第一三〇号 昭和十八年八月二十四日起案「入學志願者、入學者
及現在生徒數等調ニ關スル件」

⑤ 昭和十八年十一月十三日付「年齢別學生生徒數調ニ關スル件」照会お
よび回答

⑥ 発專二六〇号 昭和十八年十一月二十四日付「昭和十九年度専門學校
入學者選抜試験ニ關スル件」通牒

音教第二七八号 昭和十八年十一月二十六日起案回答

⑦ 昭和十八年十二月三日付「使用教科用圖書照會ニ關スル件」照会
音教第二九一号 昭和十八年十二月十八日起案回答案

⑧ 発專二七六号 昭和十八年十二月九日付「高等諸學校教科用圖書認可
申請ニ關スル件」

音教第二九九号 昭和十八年十二月二十七日起案「教科書使用認可申
請案」

音教第四号 昭和十八年十二月二十七日起案「教科書使用報告案」

⑨ 発専六号 昭和十九年一月十三日付「昭和十九年度専門學校入學志願者數調査ニ關スル件」

音教第五号 昭和十九年二月十五日起案「回答案」

發専八九號（次の「音教第六八號」のための参考として掲載）

昭和十八年五月五日

文部省専門教育局長印

東京音樂學校長殿

専門學校教育刷新充實ニ關スル件照會

時局下専門學校教育ノ刷新充實ヲ圖ルハ緊急ノ要務ト被存ニ付テハ之カ參考ニ資シ度左記事項ニツキ貴官ノ御意見ヲ承り度五月十日迄ニ御回報相成度

追而修業年限三年トシテノ理想的學科課程表案及ヒ其ノ内容説明御送附相成度尙最近制定セル教授要目アラハ御送附相煩度

記

一、當該學校教育ノ目標竝ニ性格ニ關スル件

二、學科竝ニ學科目ノ増設廢止及ヒ統合ニ關スル件

三、每週教授時數竝ニ休業日ニ關スル件

四、修練ニ關スル件

五、研究科、別科、實科、聽講生等ニ關スル件

六、設備ニ關スル件

七、其他

〔和文タイプ〕

音教第六八號 發送五月十五日

昭和十八年五月十日起案

回 答 案

年 月 日

學 校 長

文部省専門教育局長永井浩宛

専門學校教育刷新充實ニ關スル件回答

五月五日附發専八九號ヲ以テ御照會ニ相成リ頭書ノ件別紙ノ通り及回答也

記

一、學校教育ノ目標竝ニ性格ニ關スル件

本校ハ皇國ノ道ニ則リ我ガ國及大東亞共榮圈ニ於ケル音樂文化ノ建設ヲ擔當スベキ人材ノ養成ヲ目標トシ、

在來ノ自由主義的藝術觀ヲ排シ肇國以來ノ國民精神ノ顯現タル所謂本校創設ノ目的タル國樂ノ創成ヲ期スル爲之ガ基礎タルベキ學理的・實際的攻究ト教育ヲ行フ

二、學科竝ニ學科目ノ増設廢止及ヒ統合ニ關スル件

イ、本科學科目ノ増設

生徒ノ専修科目ト關連シテ學期ノ隨意科目タル獨唱、ピアノ、オルガン、絃樂器、管樂器、打樂器、歌劇、邦樂、作曲法、指導法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語ヲ選擇科目トシテ學修セシム

ロ、邦樂科ヲ本科ニ統合セシム

國家ノ日本音樂文化建設ノ要請ニ應ズルタメ邦樂科ヲ本科ニ統合セシム

邦樂科ヲ本科ニ新設ス。豫科ニ邦樂部志望者ヲ入學セシム
邦樂部

「學科目」修身・能樂又ハ絃曲（箏曲・長唄）音樂理論 國史（音樂史ヲ含ム）國語、外國語、體操

卒業後師範學校・中學校・高等女學校教員無試験檢定ヲ得ント欲スル者ハ前表ノ學科目ヲ修了スルコトヲ要ス

學科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
唱 歌	二	二	二
ピ ア ノ	一	一	一
教 育 學	二	二	一
音樂教授法	一	一	二

ハ、師範學校教員養成ノ目的ヲ以テ研究科教育部（修業年限ニケ年）ヲ擴充ス

三、毎週教授時數並ニ休業日ニ關スル件

イ、時數ハ學則ノ廿三時間ノ外ニ隨意科目合唱・合奏ノ實習等ヲ五時間乃至十時間増加授業スルモノトス

ロ、休業日

月曜日ハ演奏會、合唱・合奏等ヲ（月二回）行フ

春季休業ハ事實上休業セズ・普通授業ノ外修練工作等ヲ行ヒ

夏期休業ハ地方遠隔ノ土地ヨリ留學セルモノ多キ事情ニ鑑ミ約三週間休業スルコトアルモ休業期間中ノ近縣在京者ニ對シテハ修練工作等ヲ課ス

冬期休業ハ年末、年頭ニ亘リ約一週間休業ス

四、修練ニ關スル件

耕作・軍工場、作業等ノ行的鍊成・合宿訓練生徒生活ノ常住坐臥ニ於ケル日本精神的躰教育ノ勵行ハ勿論、音樂報國ノ實踐的修練ノ一部トシテ演奏會、放送（レコード吹込、傷病將士ノ慰問演奏、演奏旅行等ヲ實施ス

勤勞、放送、演奏等ハナルベク授業ニ差支ヘザルタメ休日ヲ以ツテ之ニ充ツルコトトス

五、研究科 別科 實科 聽講生等ニ關スル件
研究科

本科、甲種師範科所定ノ課程ヲ終了セルモノニ更ニ進デ藝術ノ蘊奧ヲ極メ、廣ク大東亞共榮圈ノ内外ニ涉リ音樂文化ノ指導ニ任シ又國樂創成ニ當ル人材並ニ音樂科高等教員ノ養成ヲナス
研究科ヲ分チ聲樂部、邦樂部、器樂部、作曲部、教育部、トナシソノ專修學科目ハ左記ノ通りトス

聲樂部 唱歌、器樂部、ピアノ、オルガン、絃樂器、管樂器、打樂器、ハープノ中一ヲ專修ス
邦樂部 能樂、箏曲、長唄ノ中ノ一ヲ專修ス

作曲部 作曲

教育部 唱歌 器樂 音樂理論

右ノ專修課目ノ外左記ノ學科ヲ課ス

修身、歴史（音楽史、文化史） 美術、藝術學、音聲學 音響學 音響理學 國文學 外國文學
教育部ニアリテハ教育學ヲ加フ

別科

甲種師範科生徒ノ教育實習機關缺除セルタメ別科（修業年限四ケ年）ヲ置ク

國民學校、中等學校生徒ニ當該學校ニ並行シテ組織的且系統的ニ音樂教育ヲ施シ兼テ師範科生徒ノ教育實習機關ヲラシム

聽講生

本科及ビ甲種師範科卒業生選科研究科終了生ニ研究科ノ專修課程目ノミヲ學修セシメル

選科

職業ニ従事スルモノ又ハ他ノ學校ニ通學スル生徒ニ正規ノ音樂ヲ教授ス

六、設備ニ關スル件

本校ハ明治十八年ノ建築ニナルモノニシテ最近數年來多少ノ増築ヲ加ヘタルモ生徒數ニ比シテ目下ノ教育ニハ教室狹隘ヲ極メ授業上不便多キタメ増築ハ目下ノ急務ナリトス

音樂授業ニ關シテハ内容、著シク増加セルヲ以ツテ樂器（教授用・練習用）ノ確保ハ重大ナル問題ナリ

合宿訓練場トシテノ男子ノ寄宿舎ノ新築、運動場並ニ鍊成農場ノ擴張、農場附屬ノ修練道場ノ新設ハ時局下ニ於ケル音樂學徒鍊成ニ喫緊事ナリトス

〔手書き〕

音教第七三號 發送五月十四日

昭和十八年五月十四日起案

報告案

年月日

學校長

文部省國民教育局長宛

高等師範學校ニ關スル調査ノ件報告

本年度高等師範學校等ニ關スル調査ノ件別紙ノ通り及報告候也

高等師範學校等ニ關スル調査（昭和十八年四月一日現在）

（一）甲種師範科ニ關スル調査

一、生徒數

音樂科	科別		學年別
	男	女	
總計	二五	三六	六一
第一學年	一二	二六	三八
第二學年	二〇	二一	四一
第三學年	二六	二八	五四
計	八三	一一一	一九四

二、外地及外國人生徒數

音樂科	科別		學年別
	男	女	
總計	一	一	二
第一學年			
第二學年			
第三學年	一		一
計	一	一	二

（備考）前記外地人ハ朝鮮一名中華民國一名

三、本年度入學狀況

音 樂 科			科 別		男女別	卒業別
總 計	女	男				
約四〇			募集人員			
二二五	一五〇	六五	入學志願者			
五九	三六	二三	入學者數			
四九	五	四四	入學志願者	師範學校卒業	入學志願者及入學者 ノ出身學校別員數	
一五	〇	一五	入學者			

			卒業別		入學志願者及入學者ノ出身學校別員數			
男女別			中學校又ハ女學校卒業	其ノ他ノ學校卒業				
總計	女	男	入學志願者	入學者	入學志願者	入學者	入學志願者	入學者
一六二	一四五	一七		七	三	〇	一	一
四二	三五				一	〇		〇

四、上記ノ内外地及外國人入學狀況

音 樂 科			科 別		卒 業 別
總 計	女	男	男 女 別		
七	二	五	入 學 志 願 者		
○	○	○	入 學 者 數		
六	一	五	志 願 者	師 範 學 校 卒 業	入 學 志 願 者 及 入 學 者 ノ 出 身 學 校 別 員 數
	○	○	入 學 者		

			卒業別	
總計	女	男	男女別	
一	一	〇	志願者	中學校又ハ女學校卒業 其ノ他ノ學校卒業
			入學者	
			志願者	
			入學者	

五、前年度半途退學者數

音 樂 科			學 科		學 年
總 計	女	男	男女別 事由		
			疾 病	第一學年（四年制）	
			懲 戒		
			其ノ他		
一	一		疾 病	第二學年（三年制）	
			懲 戒		
			其ノ他		

總計	女	男		
			疾病	第二學年
			懲戒	
			其ノ他	
			疾病	第三學年
			懲戒	
			其ノ他	
一	一		疾病	計
			懲戒	
			其ノ他	

六、甲種師範科擔任學科目及教授時數調

擔任學科目及時數			官 職		氏 名
獨 唱	ピアノ	六	東京音樂學校教授	氏 名	
八			長坂 好子	高折 宮次	備考

オルガン	ピアノ	修身英語	國語	ピアノ	音樂學史	ピアノ	獨逸語	ピアノ	獨唱	獨唱	音樂理論指揮法	音樂理論教授法	ヴァイオリン	獨唱	獨唱	合唱歌唱	ピアノ	教育學	音樂理論	獨唱	ピアノ
十	十三	一四	六	五	二四	八	四	九	八	一〇	二三	二八	一	二五八	六	四	四	四	四	十五	九
																			東京音樂學校助教授		
眞篠俊雄	田中規矩士	馨壽夫	風巻景次郎	川上きよ	遠藤宏	福井直俊	妹尾幹	宇佐美ため	田中宣子	木下保	橋本國彦	下總覺三	井上武雄	城多又兵衛	豐増昇	藤謙敬	細川碧	淺野千鶴子	遠山つや		

獨逸語	英	獨唱	ピアノ	ピアノ	ピアノ	ピアノ	ピアノ	音聲學	音聲學	獨唱	獨唱歌	管樂器	管樂器	ヴァイオリン	ヴァイオリン	ピアノ	ピアノ	ピアノ	獨唱	獨逸語	
二四		十一	七	五	十一	十	九	八	二	一	二	四一	五	六	二	三	十一				
										東京音樂學校講師											
吉田辰雄	橋本秀次	水谷達夫	永井進	今井治郎	岡田次郎	免束龍夫	鈴木正三	山本力	藤井典明	武岡鶴代	颯田琴次	田邊尙雄	萩原英一	貫名美名彦	小田雪江	黒澤愛子	宮内鎮代子	平原壽恵子	見田公子	中村ハマ	小倉末

學 校 長
文部省専門教育局長宛

生徒數等ニ關スル件報告

本校入學志願者數、受験者數、入學者數、生徒數、修了者數及卒業
者數、別紙ノ通り及報告候也

入學志願者、受験者、入學者、生徒數、修了者數及卒業者數調

種 別	定 員	昭和十八年度			昭和十八年五月一日現在生徒數			昭和十七年度		
		入 學 者	受 験 者	入 學 者	年 第 一 學 年	年 第 二 學 年	年 第 三 學 年	計	卒 業 者	卒 業 者
豫 科	三〇	七三 × 〇九 〇二	三三 × 〇九 〇二	六〇 × 〇九 〇二	二〇 × 〇四 〇二	二〇 × 〇四 〇二	二〇 × 〇四 〇二	二〇 × 〇四 〇二	三三 〇三 五	三三 〇三 五
本 科	各學 年 三〇	銓 衡								
聲 樂 部	〇 八 三	〇 八 三			〇 九 三	〇 九 五	〇 六 六	〇 二 四	〇 八 四	〇 八 四
器 樂 部	〇 二 六	〇 二 六			〇 一 六	〇 一 五	〇 一 五	〇 一 七	〇 二 六	〇 二 六
作 曲 部	〇 一 六	〇 一 六			〇 一 六	〇 一 〇	〇 一 〇	〇 一 八	〇 二 二	〇 二 二
計	〇 三 五	〇 三 五			〇 三 七	〇 三 四	〇 三 一	〇 三 〇	〇 三 六	〇 三 六
甲種師範科	三〇	六五 〇一 五〇	五八 〇一 四二	二三 〇三 六三	二五 〇三 六五	三 〇二 一〇 制	四 〇二 一五 制	八三 〇一 一〇	二四 〇三 一四	二四 〇三 一四
邦 樂 科	一五	〇 三 一	〇 三 〇	〇 二 九	〇 二 九	〇 二 六	〇 二 六	〇 七 一	〇 一 四	〇 一 四
研 究 科		銓 衡								
聲 樂 部	〇 七 三	〇 七 三			〇 七 五	〇 五 六	〇 二 一	〇 二 一	〇 五 一	〇 五 一

獨 唱	十		澤 崎 定 之	
教 練	六		知 脇 睦	
獨 唱	十二 九		酒 井 弘	
打 樂 器	一	東京音樂學校教務囑託	內 藤 清 五	
管 樂 器	二		小 林 安 八	
長 唄	四		加 藤 照 彦	
體 操	四		東 與 子	
國 語	二		近 藤 忠 義	
箏 曲 (山田流)	七		東 條 夏 子	
體 操	四		天 野 ち よ う	
長 唄	四		横 山 芳 枝	
箏 曲 (生田流)	八		古 川 太 郎	
箏 曲 (生田流)	十		宮 城 よ し 子	
管 樂 器	三		山 本 正 人	
管 樂 器	一		中 田 一 次	
管 樂 器	二		岡 田 朗	
教 練	六		鈴 木 仙 吉	
配 屬 將 校				

音教第八八號 發送六月一日

昭和十八年五月三十一日起案

報 告 案

年 月 日

器樂部	作曲部	邦樂部	計	聽講生	總計	
					女	男
〇一八八	〇二二	〇二一	〇三九四	〇三三四	〇四八七	×一八六
〇一八八	〇二二	〇二一	〇三九四	銓衡	×〇三六	×一二五
〇一八八	〇二二	〇二一	〇三九四	〇三三四	×〇二二	×〇二二
〇一八四	〇二三	〇二一	〇三九三	〇三三四	×〇二二	×〇二二
〇一二四	〇二四	〇七三	〇二四三	〇三九一	×〇一六	×〇一六
〇三〇八	〇二三	〇一九四	〇六三六	〇七二一	×〇三三	×〇三三
〇一一一	〇二二	〇二一	〇二一	〇二一	〇四九	〇三三

「備考」本科第一學年生徒數、入學者數ヨリ増加シタルハ、應召及病氣ニヨリ休學セル生徒ノ原級ニ止マリタル者有ル爲ナリ。
 研究科男生徒數ノ入學者數ヨリ増加シタルハ應召生徒ノ原級ニ止マリタル者有ル爲ナリ。

入學志願者、入學受験者、入學者生徒數、修了者數、卒業者數調

種別	選科	唱歌	ピアノ	オルガン	ヴァイオリン	セロ	管
定員	入學志願者	入學受験者	入學者	第一次受験者	第二次受験者	修了生	計
昭和十八年度	〇四四	〇二九	〇五二	〇二五	〇一七	〇〇一	〇〇七
昭和十八年五月一日現在	〇四四	〇二九	〇五二	〇二五	〇一七	〇〇一	〇〇七
昭和十七年度	〇四四	〇二九	〇五二	〇二五	〇一七	〇〇一	〇〇七
摘要	〇四四	〇二九	〇五二	〇二五	〇一七	〇〇一	〇〇七

作曲	能樂諸	仕舞	小鼓	太鼓	箏及三絃	唄及三味唄	舞踊	合計
女	男	女	男	女	男	女	男	合計
〇三三	〇二四	〇四五	〇一〇	〇〇〇	〇二四〇	〇八三	〇六〇	一六五
〇三三	〇二二	〇三五	〇一〇	〇〇〇	〇二〇〇	〇八二	〇六〇	一五七
〇三三	〇二二	〇三五	〇一〇	〇〇〇	〇一九〇	〇八二	〇六〇	一五七
〇二五	〇二八	〇四五	〇一〇	〇〇〇	〇二六〇	〇九〇	〇九〇	一九〇
〇二三	〇二四	〇五四	〇二〇	〇一〇	〇三二一	〇四四	〇三九	九八
〇〇六	〇六四	〇六四	〇一〇	〇一〇	〇九〇	〇一一	〇〇〇	一六六
〇〇〇	〇〇〇	〇〇〇	〇二〇	〇〇〇	〇二〇	〇七〇	〇〇〇	五六
〇四四	〇六六	〇一五三	〇六〇	〇二一	〇六九一	〇六八	〇四八〇	八八三
〇一〇	〇四七	〇三一	〇一〇	〇〇〇	〇〇〇	〇八〇	〇〇〇	五〇

〔表中、左側の数字の上部に記されている小さい〇印は「女」、欄外に「能樂囃子科第三學年一計一」の書き込みがあるが本表の總計には含まれていない〕

發專一五四號(次の「音教二三〇號」のための参考資料)

昭和十八年七月二十六日

文部省専門教育局長 永井 浩印

東京音楽學校長殿

貴校(貴學豫科)入學志願者、入學者及現在生徒數等調ニ關シ左記様式ニ依リ御調査ノ上來ル八月十五日迄ニ御回報相成度

第一表 入學志願者、入學者及現在生徒數調

學校名	種別	學科	入學志願者	受驗者	入學者	第一年	第二年	第三年	第四年	第五年	計	昭和十七年九月卒業業者數
-----	----	----	-------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	---	--------------

〔書式略〕

記入注意

1. 本表中種別ノ欄ハ本科、別科、選科生、聽講生、第一種、第二種等ノ別ヲ、學科ノ欄ハ種別ニ從ヒ學科名ヲ記入スルコト

2. 晝間、夜間ノ二部教授ヲナス學校ニアリテハ種別ノ欄ニ括弧ヲ付シ晝間部夜間部等ト記入シ夫々別欄ニ記入スルコト

3. 本表ハ外國人ハ×印、女子ハ○印ヲ以テ外數ニテ記入スルコト

第二表 入學志願者及入學者學歷別調

學校名	學科	入學志願者	中學校又ハ入學者	高女卒業業者	工業	商業	農業	水産	職業	其ノ他	計	專檢	合計
-----	----	-------	----------	--------	----	----	----	----	----	-----	---	----	----

〔書式略〕

記入上ノ注意

1. 本表ハ本科ノ入學志願者、入學者ニ付記入スルコト
2. 晝間、夜間ノ二部教授ヲナス學校ニアリテハ種別ノ欄ニ括弧ヲ付シ晝間部夜間部等ト記入シ夫々別欄ニ記入スルコト

3. 本表ハ外國人ハ×印、女子ハ○印ヲ以テ外數ニテ記入スルコト

ト

第三表 退學者數調

學校	學科	在籍生徒數	思想不正	長期缺席	學費未納	學力不十分	家事都合	本人ノ都合	轉學	病氣	死亡	其ノ他	計
----	----	-------	------	------	------	-------	------	-------	----	----	----	-----	---

〔書式略〕

記入上ノ注意

1. 本表ハ昭和十七年四月乃至全十八年三月ノ退學者ニ付記入スルコト

2. 本表ハ本科ハ學科別ニ其ノ他ノ生徒ハ其ノ他ノ欄ニ合算記入スルコト

3. 晝間、夜間ノ二部教授ヲナス學校ニアリテハ種別ノ欄ニ括弧ヲ付シ晝間部夜間部等ト記入シ夫々別欄ニ記入スルコト

4. 本表ハ外國人ハ×印、女子ハ○印ヲ以テ外數ニテ記入スルコト

第四表 卒業者就職狀況調

學校名	學科	卒業業者數	需要數	官公署	教員	社會	銀行	自營	其ノ他	計	卒業者ニ對スル百分率	需要者ニ對スル百分率	就職セザル者	計
-----	----	-------	-----	-----	----	----	----	----	-----	---	------------	------------	--------	---

〔書式略〕

記入上ノ注意

1. 本表ハ昭和十七年九月卒業業者ニ付調査スルコト
2. 晝間、夜間ノ二部教授ヲナス學校ニアリテハ種別ノ欄ニ括弧ヲ付シ晝間部夜間部等ト記入シ夫々別欄ニ記入スルコト

3. 本表ハ外國人ハ×印、女子ハ○印ヲ以テ外數ニテ記入スルコト
〔横書きの手書き〕

昭和十八年八月二十四日起案

回 答 案

記

年
月
日

學
校
長

文部省專門教育局長永井浩宛

入學志願者、入學者及現在生徒數等調ニ關スル件

七月二十六日付發專一五四號ヲ以テ御照會ニ係ル表記ノ件別紙ノ如ク回答ニ及候也

第一表 入學志願者、入學者及現在生徒數調

東		名學校
本 科	豫 科	種 別
銓	× 〇 二〇 六三	入學 志願者
衡	× 〇 二〇 七三	受驗者
〇 五三	× 〇 二〇 四二	入學者
〇 三七	× 〇 二〇 七二	第一學年
〇 四九		第二學年
〇 三一		第三學年
〇 〇三	× 〇 二〇 七二	計
〇 六一		昭和十七年九月卒業

第二表 入學志願者及入學者學歷別調

東 京 音 樂 學 校							
邦樂科		甲種 師範科		豫科		學科	
入學者	入學志願者	入學者	入學志願者	入學者	入學志願者	入學志願者	中學男女學生又卒業生
○二八六	○三〇六	○三六七	○一四一五七	○× 二四六	×一八	○× 一九六	三八
/	/	/	/	/		工業	實業學校 卒業者
○一一	○一一	一	三	一	一三	商業	
/	/	/	/	/	/	農業	
/	/	/	/	/	/	水產	
/	/	/	/	○一	○三	職業	
/	/	一四	○四五四	/	一	其他	
○一一	○一一	一五	○四五七	○一一	○一三五	計	專檢 合計
/	/	一	一	/	/		
○二九七	○三一七	○二三三	○二六〇五	○× 二四八	×二〇	○× 一九三	七三

京 音 樂 學 校							
合 計		能樂囃子科	選 科	聽 講 生	研 究 科	邦 樂 科	甲 種 師 範 科
女	男						
○ 三二	× 三〇五	/	○ 一〇一〇	銓	銓	○ 三七	○ 一〇五
○ 二二〇	× 二二三	/	○ 二一七	衡	衡	○ 二〇七	○ 二四
× 二四二五	× 二四八	/	○ 一五七	○ 三三	○ 元一四	○ 元七	○ 六三
○ 二〇三	× 二四	一	○ 三三	○ 元三	○ 元七	○ 六四	○ 六二
○ 一〇四	八		○ 二二	○ 二二	○ 六四	○ 六二	○ 一〇六
○ 一〇	四八	一				○ 六二	○ 六二
× 三三	× 二四八	二	○ 一〇	○ 六	○ 六三	○ 七一	○ 一〇
○ 一〇	元	/	/	/	/	○ 一四	○ 二

第三表 退學者數調

東京音楽学校							学校 學科
總計	其 他	計	邦 樂科	師 範科種	本 科	豫 科	生徒 數
○ × × 三 七	○ 四 四 八	○ × × 三 八	○ 六 一 九	○ × × 一 〇	○ 二 六 三	○ × × 四 七	在 籍 數
							關 係 不 正
							行 為 不 正
							缺 席 期
○ 九	○ 九						未 納 費
三		三			一	二	不 十 分 力
○ 一 四 〇	○ 一 七 四	○ 三	○ 三				都 家 事
○ 二 三 七	○ 二 二 七	○ 一	○ 一				都 本 人 合 ノ
○ 〇 一 七	○ 〇 一 七						轉 學
五 一 五	○ 二 三 三	二		○ 一	○ 二		病 氣
二	○ 一	一			○ 一		死 亡
○ 六 七	○ 六 七						他 其 ノ
○ 二 〇 四 五	○ 二 九 八	七 五	四	一	二 三	二	計

第四表 卒業者就職状況調

東京音楽学校				名 學 校
邦 樂科	師 範科種	本 科	卒 業 者 數	學 科
○ 二 四	○ 三 四	○ 三 四	○ 三 四	卒 業 者 數
				申 込 要
				署 官 公
				教 員
				會 社
				銀 行
				自 營
				他 其 ノ
				計
				分 率
				卒 業 者 二 百
				分 率
				申 込 要 二 百
				定 未 決
				中 勉 學
				死 亡
				他 其 ノ
				計

昭和十七年度退學者數調(自昭和十七年四月至昭和十八年三月) 同 除籍者數調

理 由	男	女	計

家事ノ爲	本校入學ノ爲	兒童入園ノ爲	軍務ノ爲	學業ノ爲	一身上ノ爲	病氣ノ爲	通學ノ爲	教務ノ都合	結婚ノ爲
一 二	六	一	四	一	一	一	一	二	一
一 二 四	九	一		五	八	一 〇	二		
一 二 六	一 五	二	四	六	九	一 一	三	二	一
男	一 二 七								
女	一 九 五								
計	三 二 二								

(この文書には㊟の印が押されている)

(「自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課」)

(横書きの手書き)

以下は文部省よりの照会とそれに対する回答である。本校側の書類は回答内容のみが残っている。

昭和十八年十一月十三日

文部省専門教育局専門教育課

専門学校長殿

年齢別學生生徒數調ニ關スル件

様式

年齡別生徒數調

(昭和十八年十月一日現在)

學
校
名

以下同ジ	第何學年	第何學年	何々分科	何々學校	區分	
					年	齡
				人	何歲	年
				人	何歲	
				人	何歲	齡
				人	何歲	
				人	何歲	別
				人	何歲	
					計	
					備考	

調製上ノ注意

一、年齢ハ滿ヲ以テ計算スルコト

一、本調査ハ本科生ノミヲ意味シ別科生選科生等ヲ含マズ

〔青色で「電話ニテ照會 十四日附書類ハ本校未着」と書き込みがある〕

						區分	年 齡	
豫 科		第本 學年科		第二學年科				
男	女	男	女	男	女			
							31歲	年
	—						30歲	
							29歲	
一	—						28歲	
	—						27歲	
							26歲	
一			—				25歲	
	—				—		24歲	
四					二		23歲	齡
三	—	一	三	一	二		22歲	
四	一一	二二	六五	六一	四五		21歲	
三	四三	六四	〇四	〇四	四		20歲	
二	一一	〇七	一五	二五	二		19歲	別
二	一二	四五	一五	二三	二		18歲	
	一六	五三	二				17歲	
	三一						16歲	
二〇	四八	一九	三七	三四	三四	一九	計	
							備考	

年齡別生徒數調

(昭和十八年十月一日現在)

東京音樂學校

總計	計		第邦樂學年科		第邦樂學年科		甲種師範科 (四年制)		甲種師範科 (三年制)		甲種師範科 (二年制)	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
一	—	—					—					
一	—	—										
一	—	—							—			
三	—	二			—							
二	—	二							—			
四	—	四			—		二		—			
四	—	三			—				—			
五	—	三							二		—	
一〇	—	二八	—		—		—		—			
一四	—	四〇	—				—	—				
三四	—	一六	—		二		三	三	三		—	
六三	—	三七	二	一	三		九	八	二		四	
八九	—	六九	三	一	五	三	七	四	八		一〇	
七九	—	六〇	一	六	四		一	三	二		四	
五六	—	四六	一	八	二	六	一〇	一	二		—	
一四	—	一三	—	三	—		六					
三八〇	—	二五	—	二	五	四	三	二	六	二	二	

〔手書き〕（『自昭和十八年度至昭和二十年
度 公文書綴 教務課』）

昭和十八年十二月三日

文部省専門教育局長印

學
校
長
殿

使用教科用圖書照會二關スル件

今般昭和十八年度使用ノ教科用圖書調査ノ必要有之ニ付別紙様式ニ依り本年十二月二十日迄ニ報告相煩度

昭和十八年度使用教科用圖書一覽

	教科目
	圖書名
	著者名
	定價
	發行所
	使用學科 及學年
	使用冊數
	備考

記入上ノ注意

1. 教科書ハ勿論教授ニ使用スル参考書モ記入ノコト、但シ参考書ノ場合ハ(参)ヲ又文部省認可済ノモノハ(認)ヲ備考欄ニ記入ノコト
2. 學校ニ於テ印刷シタル「プリント」ハ含マザルコト
3. 本調査ハ昭和十八年度ニ於テ生徒ニ使用セシメタルモノニ限ルコト
(和文タイプ)

(「自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課」)

音專第二九一號 發送十二月廿二日

昭和十八年十二月十八日起案

回 答 案

年 月 日

學 校 長

文部省専門教育局長宛

使用教科用圖書紹介ニ關スル件回答

十二月三日付ヲ以テ御照會ニ係ル表記ノ件 別紙ノ如ク御回答ニ及候也

昭和十八年度使用教科用圖書一覽

東京音楽學校

教科目	圖書名	著者名	定價	發行所	使用學科及學年	冊數	使用備考
國語	明治大正新語選	風卷 景次郎	一・二〇	白帝社	本科第三學年	五〇	認
〃	〃	〃	〃	〃	甲種師範科 第二學年	五四	認

〃	源氏物語抄	大數 虎亮	一・〇〇	白帝社	本科第二學年	五三	認
〃	〃	〃	〃	〃	甲種師範科 第二學年	七九	認
〃	堤中納言物語	清水 泰	〇・六〇	白帝社	邦樂科第二學年	三〇	認
〃	更級日記	島田 退藏	〇・六〇	三省堂	甲種師範科 第一學年	六二	認
〃	〃	〃	〃	〃	邦樂科第一學年	三六	認
〃	中世文學新選	齊藤 清衛	〇・八〇	武蔵野書院	豫 科	六九	認
〃	西鶴選	顯原 退藏	〇・九〇	三省堂	本科第三學年	五〇	認
〃	俳文學選	志田 義秀	一・二〇	明治書院	甲種師範科 第三學年	五四	認
獨逸語	Abriss der Deutschen Literaturgeschichte	Horst Ham-mitsch	〇・九〇	丸 善	本科第三學年	四二	認
〃	Deutsche Musikprosa der Gegenwart	木村 謹治	〇・七〇	春陽堂	本科第一學年	四七	認
〃	Erzählungen	Rosegger	一・二〇	南山堂	本科第二學年	四七	認
〃	Bilderbuch ohne Bilder	Andersen	〇・七〇	都文堂	本科第一學年	五五	認
〃	Deutsch für Anfänger	松岡 敏好	〃	尙文堂	豫 科	六九	認
〃	Neues Grammatisches Lesebuch	山田 幸三郎	一・〇〇	三省堂	甲種師範科 第一學年	三八	認
〃	Deutscher Leitfaden	尾花 午郎	〇・九五	白水堂	甲種師範科 第一學年	六一	認
〃	Deutsch für Anfänger	角 信雄	一・〇〇	南山堂	甲種師範科 第一學年	四一	認
〃	Eine Pilgerfahrt zu Beethoven	Richard Wagner	〇・六〇	南山堂	本科第一學年	五五	認
〃	Zwei Meister	Ernst Bertam	〇・九五	富山房	本科第二學年	四七	認
英語	The private papers of Henry Kyercraft	Cusick	〇・二五	研究社	邦樂科第二學年	三〇	認
〃	Justice	John Galsworthy	〇・九〇	大洞書房	本科第三學年	八	認
〃	Stories from the Operas	梅谷 興一	一・二〇	莊人社	本科第二學年	六	認
〃	Little Woman	L. M. Alcott	一・〇〇	開隆堂	甲種師範科 第三學年	五四	認
〃	Wonderbook	Hawthorne, N.	〇・五三	北星堂	邦樂科第一學年	四三	認
〃	Kwaida	Hearn	一・〇〇	研究社	邦樂科第二學年	三〇	認
〃	A Christmas Carol	Dickens	一・〇〇	北星堂	邦樂科第三學年	一八	認
〃	The Sketch Book	Living	一・〇〇	研究社	甲種師範科 第三學年	五四	認
〃	Short stories in our time	瀧口 直太郎	一・〇〇	三省堂	本科第三學年	八	認

〃	The English country Calendar	Frank, H. Lee	一〇〇	北 星 堂	本科第二學年	六 認
〃	Robinson Crusoe	Daniel Defoe	〇・三五	開 拓 社	邦樂科第三學年	一八 認
佛蘭西語	Lecture Française Premier degré	田島 清	〇・六〇	白 水 社	本科第二學年	五 認
〃	Cours élémentaire de langue Française	人持 義正	〇・九〇	外語學院	本科第一學年	五 認
〃	Histoire d'Alibaba	内藤 濯	〇・五〇	白 水 社	本科第三學年	三 認
伊太利語	Grammatica Italiana	Paganini	〇・五	友イタリヤ會	本科前期	一三 認
〃	Lecture Italiana	〃	〇・八五	〃	本科後期	一二 認

〔手書き〕（自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課）

發專二七六號

昭和十八年十二月九日

文部省專門教育局長印

文部省國民教育局長印

東京音樂學校長殿

高等諸學校教科用圖書認可申請ニ關スル件

今般本省官制ノ改正アリタル處爾今高等諸學校教科用圖書ノ認可申請ニ關シテハ左記御留意ノ上手續相成様致度

追而教科書ノ採用ニ當リテハ十分研究ノ上眞ニ適切ナル書アラバ之ヲ新ナル教科書トシテ採用スルハ素ヨリ望マシキコトニ屬スルモ徒ニ新奇ヲ追フガ如キコト無之ハ勿論不認可ト相成ルガ如キ書ヲ選定セラルルガ如キコト無之ヤウ嚴ニ御注意相成度

記

一、臨時教員養成所ヲ附設シアル專門學校等ニ在リテハ申請書ハ之

ヲ別途ニ認メ添付教科書實物見本モ亦別途トスルコト

二、高等諸學校教科書目錄ニ記載シアルモノヲ使用セントスルトキハ、認可申請書ニ添付スベキ教科書實物見本ハ省略シテ可ナリ、但シ此ノ場合ハ申請書ニ其ノ由ヲ明記シ置クコト

三、前項目録ニ登載シアル書籍ト雖モ、増訂、改訂等ニヨリ内容ニ變更ヲ來シタルモノヲ使用セントスルトキハ教科書實物見本ヲ添へ申請スルコト

四、添付教科書實物見本ハ事務ノ都合ニ依リ一切返送セズ

五、年度末ハ事務輻輳スルニ付可成早目ニ認可申請ノ手續ヲトラレタシ

〔手書き〕（自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課）

音教第二九九號 發送一月一三日

昭和十八年十二月二十七日起案

教科書使用認可申請案

年 月 日

學 校 長

文部大臣宛

教科書使用申請ノ件

本校昭和十九年度教科書トシテ左記圖書使用致度ニ付御認可相成度該圖書一部相添へ此段及申請候也

第一號様式

教科書使用認可申請

東京音楽學校

學科目	教授擔任者 官職氏名	科、學年	圖 書 名	著、編者	發行所	發行年月日
國語	清水重道	第二學年科	校註 萬葉集新選	久松義久 澤田裕吉 久松一	武藏野書院	昭和十七年三月三日
〃	〃	甲種師範科	〃	〃	〃	〃
〃	〃	第一學年科	更級日記	佐山濟	武藏野書院	昭和十六年一月三十一日
〃	〃	第一學年科	〃	〃	〃	〃
〃	〃	豫科	中世文學選	島津久基	中興館	昭和十一年二月二十日
〃	〃	第二學年科	源氏物語	島津久基	中興館	昭和十二年三月二十日
〃	〃	第一學年科	對選國文新抄 伊勢物語、大和物語	島津久基	中興館	昭和十六年一月一日
獨逸語	助教 吉田辰雄	甲種師範科	Geschichte von Alt-Heidelberg	和洋書局	白水社	昭和十五年九月五日
〃	〃	第一學年科	新提要 獨逸小文典	高桑純夫	南山堂	昭和十七年四月十日
英語	教授 藤敬	第三學年科	Sketches	田部隆次	研究社	昭和十六年四月一日
〃	〃	第三學年科	〃	〃	〃	〃
〃	〃	第二學年科	Twelve best short Stories	熊野吉次郎	北星堂	昭和十二年五月三日
〃	〃	第二學年科	Twice Told Tales	北星堂編輯部	北星堂	昭和十二年九月五日
〃	〃	第一學年科	Japanese Fairy Tales	黒田 輝	研究社	昭和十五年四月二十五日
〃	助教 吉田辰雄	第一學年科	Selected Lectures of Maurice Baring	Marie Perle 小田切米作	北星堂	昭和八年十二月十日
伊太利語	下位英一	第三學年科	伊語讀本一	Paganini	イタリヤの友の會	昭和十六年一月三十日
〃	〃	第三學年科	伊語讀本二	Paganini	イタリヤの友の會	昭和十六年二月二十日

(手書き) (自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課)

音教第四號 發送一月一三日

昭和十八年十二月二十七日起案

教科書使用報告案

年月日

學校長

文部大臣宛

教科書使用報告ノ件

本校昭和十九年度教科書トシテ左記圖書使用可致ニ付、此段及報告候也

第二號様式

教科書使用圖書報告

東京音楽學校

學科目	教授擔任者 官職氏名	科、學年	認可セラレタル年月日	圖 書 名	著、編者	發行所	發行年月日
獨逸語	助教 妹尾 幹	第三學年科	昭和十六年五月五日	Abriss der Deutschen Literaturgeschichte	H. Hammit.	丸善	昭和十二年三月十五日
〃	〃	第二學年科	〃	Deutsche Musterprosa der Gegenwart	木村 護治	春陽堂	昭和十年一月二十日
〃	〃	第二學年科	〃	Erzählungen	Roseger	南山堂	昭和十一年四月一日
〃	〃	第一學年科	〃	Bilderbuch ohne Bilder	Andersen	都文堂	昭和十五年三月十五日
〃	〃	豫科	〃	Deutsch für Anfänger	松岡 敏好	尙文堂	昭和十一年三月二十八日
〃	〃	第二學年科	〃	Neues Grammatisches Lesenbuch	山田幸三郎	三省堂	昭和十五年一月三十一日
〃	〃	甲種師範科	〃	Deutscher Leitaden	尾花 午郎	日水社	昭和十五年三月十日
〃	〃	第二學年科	昭和十八年二月五日	Zwei Meister	谷 支卓 成瀬 清	富山房	昭和十五年十月十八日
〃	助教 吉田辰雄	第一學年科	〃	Eine Pilgerfahrt zu Beethoven	[Wagner] 本庄 實	南山堂	昭和十六年十一月二十日

英語	第一學年	昭和十六年五月五日	Deutsch für Anfänger	角 信雄	南山堂	昭和十三年二月十五日
英語	第一學年	昭和十六年五月五日	Wonderbook	Hawthorne 北星堂編輯所	北星堂	昭和十五年四月二十九日
英語	第一學年	昭和十六年五月五日	Justice	Calworthy	片桐書房	昭和十六年九月二十日
英語	第二學年	昭和十七年三月二十四日	Stories from the Operas	梅谷 興一	莊人社	昭和十三年四月十日
英語	第三學年	昭和十七年三月二十四日	Robinson Crusoe	Daniel Defoe	開拓社	昭和十年十月一日
英語	第三學年	昭和十七年三月二十四日	The Junior outline of History (Modern)	Kyans, T. 石井 正雄	關隆堂	昭和十四年一月十五日

(手書き) (自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課)

音教第三二號 發送二月九日

昭和十九年二月八日起案

教科書使用認可申請中追送案

年月日

學校長

文部大臣宛

使用教科書認可申請圖書送付ノ件

音教二九九號ヲ以テ申請ニ係ル教科書使用申請中左記圖書見本追加送附致候也

中世文學選

島津久基編

對選國文新抄 伊勢物語、大和物語

島津久基編

(手書き)

發專六號

昭和十九年一月十三日

文部省專門教育局長印

東京音樂學校長殿

昭和十九年度專門學校入學志願者數調査ニ關スル件

貴校ニ於ケル標記ノ件調査ノ必要有之ニ付左記ニ依リ遲滞ナク電信ヲ以テ御報告相成度

尙最終報告(一月三十一日ノ切數)ハ電信報告後直チニ別記様式ニ依リ學科別志願者數御報告相成度

記

(以下省略)

(手書き)

(自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課)

音教第五號 發送二月十五日

昭和十九年二月十五日起案

回答案

年月日

學校長

專門教育局長宛

昭和十九年度專門學校入學志願者數調査ニ關スル件回答

一月十三日附發專六號ニテ御照會相成リ頭書ノ件別紙ノ通り及回答候也

昭和十九年度入學志願者數

學校名	學科	募集人員	志願者數	備考
東京音樂學校	豫科	四〇	二八九	男子二六 女子二八

甲種師範科	三〇	二二二	男子 三九 女子 九二
-------	----	-----	----------------

〔手書き〕（「自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課」）

昭和十九年～二十年

四月、予科が廃止され、本科の修業年限が三年から四年に改められた。

従来の甲種師範科は「師範科」という名称に改正され、修業年限は四年となる。

邦楽科は本科に所属し「本科邦楽科」と改められた。

これらの改正に関する省令案全文を掲載する。

發專一四五號 裁決定五月十七日 發送五月十七日

昭和一九年四月六日起案

省 令 案

文部省令第 號

東京音楽學校規程左ノ通改正ス

年五月十七日

文 部 大 臣

第一條中「本科、師範科及邦樂科」ヲ「本科及師範科」ニ改ム

第二條 本科及師範科ノ修業年限ハ四年トス

第三條 本科及師範科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル中學校若ハ高等女學校ノ第三學年修了者又ハ本校學則ニ於テ入學ニ關シ之ト同等以上ノ學力アリト定

メタル者ニ付試験ノ上學校長之ヲ定ム

第四條 本科ハ之ヲ邦樂科、聲樂科、器樂科及作曲科ニ別ツ

第五條 本科及師範科ノ學科目及毎週教授時數ハ第一號表ニ依ル

第十一條中「前記」ヲ削ル

第十六條第一項ヲ左ノ如ク改ム

研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科師範科卒業者ニ限ル

同條第二項中「本科、甲種師範科又ハ邦樂科」ヲ「本科及師範科」ニ改ム

第六條乃至第十條ヲ削リ第十一條ヲ第六條トシ第十二條以下順次繰上グ

附 則

本令ハ昭和十九年四月一日ヨリ之ヲ適用ス

甲種師範科ハ本令施行ノ際現ニ在學スル生徒ノ卒業スル迄ハ之ヲ存置ス

本令施行ノ際現ニ豫科ヨリ進學シ本科ニ在學スル生徒ノ中第三學年、第二學年及第一學年ノ生徒ハ夫々本令ニ依ル本科第四學年、第三學年及第二學年ノ生徒トス

本令施行ノ際現ニ邦樂科第二學年以上ニ在學スル生徒ノ修業年限ハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行ノ際現ニ本科ニ在學スル生徒ノ中豫科ヨリ進學セル生徒並ニ甲種師範科及邦樂科・第二學年以上ニ在學スル生徒ニ課スベキ學科目及毎週教授時數ハ新舊規程ヲ斟酌シテ學校長之ヲ定ム

第一號表

計		増 課	徒生女		徒生男		教 育	外 國 語	國 語	歴 史	音 樂 理 論	能 樂 又 ハ 絃 曲	器 樂	唱 歌	道 義	學 科 目	邦 樂 科
女 生 徒	男 生 徒		體 鍊	家 政	體 鍊	教 練											
三五	三六	三	三	二	二	四	二	二	三	三	二	一〇	一	二	二	學第一	邦 樂 科
三五	三六	三	三	二	二	四	二	二	三	三	二	一〇	一	二	二	學第二	
三四	三五	三	三	二	二	四	二	二	三	二	二	一〇	一	二	二	學第三	
三三	三四	三	三	二	二	四	二	二	三	一	二	一〇	一	二	二	學第四	
三三	三三	三	三	二	二	四	二	三	三	三	二		二	六	二	學第一	聲 樂 科
三二	三三	三	三	二	二	四	二	三	三	三	二		二	七	二	學第二	
三〇	三二	三	三	二	二	四	二	三	三	二	二		一	七	二	學第三	
二九	三〇	三	三	二	二	四	二	三	三	一	二		一	七	二	學第四	

計		増 課	徒生女		徒生男		教 育	外 國 語	國 語	歴 史	音 樂 理 論	能 樂 又 ハ 絃 曲	器 樂	唱 歌	道 義	學 科 目	器 樂 科
女 生 徒	男 生 徒		體 鍊	家 政	體 鍊	教 練											
三五	三六	三	三	二	二	四	二	三	三	三	二		八	四	二	學第一	器 樂 科
三五	三六	三	三	二	二	四	二	三	三	三	二		八	四	二	學第二	
三四	三五	三	三	二	二	四	二	三	三	二	二		八	四	二	學第三	
三三	三四	三	三	二	二	四	二	三	三	一	二		八	四	二	學第四	
三三	三三	三	三	二	二	四	二	四	三	三	二		四	四	二	學第一	作 曲 科
三二	三三	三	三	二	二	四	二	四	三	三	二		四	四	二	學第二	
三一	三二	三	三	二	二	四	二	四	三	二	二		四	四	二	學第三	
三〇	三一	三	三	二	二	四	二	四	三	一	二		四	四	二	學第四	

備考 増課ノ時數ハ前表中音樂ニ關スル學科目ノ一學科目若ハ數學
科目ニ配當シ又ハ之等ニ關スル學科目ヲ別ニ設ケ之ニ配當ス

計		生徒女		生徒男		音聲學	音響學	美學	教育	外國語	國語	歴史	指揮法	音樂理論	器樂	唱歌	道義	學科目
		體鍊	家政	體鍊	教練													
男生徒	三 五	三	二	二	四		一		二	三	三	三		二	四	六	二	第一學年
	三 五	三	二	二	四				二	二	三	三	一	二	五	六	二	第二學年
	三 四	三	二	二	四	一			二	二	三	二		二	五	六	二	第三學年
	三 三	三	二	二	四			二	二	二	三	一		二	四	六	二	第四學年

師範科

備考

- 一、第四學年第三學期ニ於イテハ授業練習ヲ行フ
- 二、増課ノ時數ハ前表中音樂及教育ニ關スル學科目ノ一學科目若ハ數學科目ニ配當シ又ハ之等ニ關スル學科目ヲ別ニ設ケ之ニ配當ス

本案作成ニ當リ留意セル點

(舊規程ト異ル主ナル點)

音樂學校教育ノ刷新改善ニ就テハ未ダ充分ナル檢討ヲ經ザルヲ以テ規程ノ改正モ修業年限、入學資格ノ變更ニ伴フ改正ニ止メ之ガ根本的刷新ハ他日二期ス

主ナル變更箇所左ノ如シ

- 一、豫科、甲種師範科及乙種師範科別ヲ廢止ス
- 二、邦樂科ヲ本科ニ組入ル
- 三、修業年限及入學資格

(舊)

(新)

本科 豫科修了後三年乃至五年……中學校高等女學校第三學年修了後四年
但シ豫科ヨリ進學セル生徒ノ修業年限ハ從前通り

師範科

甲種師範科 中學校高等女學校卒業後三年乃至四年
乙種師範科 中學校高等女

……同 右

女生徒

三四

三四

三三

三二

（學校卒業後一年）
中學校高等女學校卒業後
邦樂科
三年
……同 右

四、學科目及每週授業時數

- 1、修身ヲ道義トシ一週一時間ヲ増シ二時間トス
- 2、本科卒業者ニ對シテモ中等學校教員檢定資格ヲ附與スルタメ教育ヲ必修トシ各學科各學年ニ每週二時ヲ課シ邦樂科ニ於テハ唱歌及器樂ヲ必修トス
- 3、國史、音樂史、藝道史ヲ加ヘテ歴史トス
- 4、家政ヲ女子ニ對シ新ニ每週二時ヲ課ス
- 5、隨意科目ヲ増課トシ之ガ規定ヲ簡略ニス

新舊規程對照表

舊 規 程	新 規 程
第一條 東京音樂學校ノ學科ヲ分チテ本科、師範科及邦樂科トス	第一條 東京音樂學校ノ學科ヲ分チテ本科及師範科トス
第二條 本科ノ修業年限ハ三箇年乃至五箇年トス	第二條 本科及師範科ノ修業年限ハ四年トス
第三條 本科ハ之ヲ聲樂部、器樂部及作曲部ニ別ツ其ノ學科目及每週教授時數左ノ如シ (學科課程表省略)	
卒業ノ後師範學校中學校高等女學校教員無試験檢定ヲ得ント欲スル者ハ前表ノ學科目ノ外左ノ學科目ヲ修了スルコトヲ要ス	第五條 本科ハ之ヲ邦樂科、聲樂科、器樂科及作曲科ニ別ツ
	第五條 東京音樂學校ノ各學科ノ

（ピアノ、教育學、音樂教授法）
ニ付時間配當表アリ

隨意科目トシテ獨唱、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バズーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器、ハープ其他管絃樂及吹奏樂ニ使用スル樂器、歌樂、邦樂、作曲法、指揮法、美學、音樂學、音響學、英語、獨語、佛語及伊語ヲ授クルコトヲ得

第四條 本科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ豫科卒業者若ハ試験ニ依リテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スト認メタル者ニ限ル

第十條 豫科ニ入學セルコトヲ得ル者ハ中學校、高等女學校又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ限り試験ノ上學校長之ヲ定ム 但シ前記ノ資格ヲ有セザル者ト雖特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者ハ試験ノ上之ヲ入學セシムルコトヲ得

第五條 師範科ヲ別チテ甲種師範科及乙種師範科トス

第六條 師範科ノ修業年限ハ甲種

學科目及每週教授時數ハ第一號表ニ依ル

第三條 本科及師範科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ國民學校初等科修了程度ヲ以テ入學資格トスル中學校若ハ高等女學校ノ第三學年修了者又ハ本校入學ニ關シ學則ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト定メタル者ニ付試験ノ上學校長之ヲ定ム

師範科ニ在リテハ三箇年及四箇年、乙種師範科ニ在リテハ一箇年トス	第七條 師範科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ	(學科課程表省略)	修業年限四箇年ノ甲種師範科第四學年第三學期ニ於テハ授業練習ヲ行フ	隨意學科目トシテ修業年限三箇年ノ甲種師範科生徒ニハオルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管弦樂合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語、修業年限四箇年ノ甲種師範科生徒ニハ英語、獨語、佛語、伊語ヲ授クルコトヲ得	第八條 師範科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ一般專門學校ノ入學資格ヲ有スル者ニ就キ試験ノ上學校長之ヲ定ム	第八條ノ二 邦樂科ノ修業年限ハ三箇年トス	第八條ノ三 邦樂科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ (學科課程表省略)
削除							
邦樂科生徒ニハ隨意科目トシテ洋樂、舞踊、美學、教育學、音聲學及音響學ヲ授クルコトヲ得							
第八條ノ四 邦樂科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校、高等女學校卒業者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ就キ試験ノ上學校長之ヲ定ム但シ前記ノ資格ヲ有セザル者ト雖モ特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者ハ試験ノ上之ヲ入學セシムルコトヲ得							
第九條 東京音樂學校ニ豫科ヲ置ク							
豫科ノ修業年限ハ一箇年トス							
豫科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ (學科課程表省略)							
(次ニ隨意科目ノ規定アリ)							
第十一條 學校長ハ臨時必要ト認メタル場合ニ於テハ前記各學科ノ毎週教授時數ヲ増減シ若ハ科外教授ヲ爲スコトヲ得							
第十二條 東京音樂學校ニ研究科、選科及聽講科ヲ設クルコトヲ得							
第十三條 研究科ヲ別チテ聲樂部、器樂部、作曲部、教育部及邦樂部トス							
削除							
第七條 第十一條中「前記」ヲ削ル							
第八條トス							
第九條トス							

研究科ノ修業年限ハ二箇年以内トス	
第十四條 研究科ノ學科目左ノ如シ (以下略)	第十條トス
第十五條 研究科ノ各學科目ノ每週教授時數ハ學則ニ於テ之ヲ定ム	第十一條トス
第十六條 研究科ノ聲樂部、器樂部、作曲部及教育部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科又ハ甲種師範科卒業者、邦樂部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ邦樂科卒業者ニ限ル	第十二條 研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科及師範科卒業者トス
本科、甲種師範科又ハ邦樂科卒業者ニ非ズシテ試験ニ依リ之ト同等以上ノ資格アリト認メタル者ハ研究科ニ屬スル學科目ノ學習ヲ許可スルコトヲ得	本科及師範科卒業者ニ非ズシテ試験ニ依リ之ト同等以上ノ資格アリト認メタル者ハ研究科ニ屬スル學科目ノ學習ヲ許可スルコトヲ得
第十七條 選科ノ修業年限、學科目及每週教授時數ハ學則ニ於テ之ヲ定ム	第十三條トス
選科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ當該學科目ヲ學修スルニ堪フト認メタル者ニ限ル	
第十八條 聽講科ニ關スル規程ハ學則ニ於テ之ヲ定ム	第十四條トス

(手書き) (自大正十四年三月至昭和二十三年七月 東京音樂學校 第二册)

関連資料として昭和十九年度の生徒数調に関する文書を掲げる。四月現在のものと六月現在のもの二回分で、それぞれ文部省からの文書と学校側からの回報である。

昭和十九年四月十九日

専門教育局長印

學 校 長 殿

専門學校現在生徒数調ニ關スル件

標記ノ件ニ關シ別紙様式ニ依リ各舊二部御調製ノ上來ル四月二十五日迄本省ニ必着スル様御回報相成度

(様式省略)

記入上ノ注意

1. 種別ノ欄ニハ本科、別科、研究科、豫科、教員養成所、附屬學校等ヲ記入ノコト
2. 第二學年以上ハ舊學科名ニヨリ記入ノコト
3. 現在生徒數中、下記ヲ外數トシテ附号ヲ附シ列記スルコト
(應)……入營應召、(外)……外國人、(委)……委託生、(休)……休學生、(半)……半島人、(臺)……臺灣人、(選)……選科生、(研)……研究生、(聽)……聽講生等
4. 備考欄ニハ現在動員中ノ分ハ其ノ動員先及期間人員ヲ記入ノコト

音教第一〇五號 發送四月廿六日

回 答 案

學
校
長

文部省專門教育局長

永井 浩 宛

專門學校現在生徒數調二關スル件回答

貴翰

四月十九日附ニテ御照會相成候頭書ノ件別紙ノ通り及回答候也

[illegible]

合 計	計	聽 講 生 女 男	科 究 研								
			計	邦 樂 部		作 曲 部		器 樂 部		聲 樂 部	
				女	男	女	男	女	男	女	男
229	7	6 1	35	9		1		14	4	6	1
13			10					7			3
6											
1											
部 2			1								1
211	64	57 7	19	7 1	2			1		6	2
44	1	1	21					15			6
2			2					2			
101											
24											
部 1											
1											
541	71	63 8	54	16 1	2 1	14	5	12		3	
81	1	1	31					22			9
7											
3 部 3			3					2			1
1											
		全上				奉職中	中等校へ	東京都下	シテ就職 他ハ全部	挺身隊ト 別組通リ	

〔原資料には第四学年の欄があるがすべて空欄。紙面の都合により省略した〕

海軍技術研究所

女子
7
常住

住友通信工業玉川向製作所

女子
10
3
ヶ月

沖電気高濱工場

女子 男子
6 9
3
ヶ月

日立製作所深川工場

女子
10
1ヶ年
〔横書きの手書き〕

（「自昭和十八年度至昭和二十年度 公文書綴 教務課」）

昭和十九年六月六日

文部省專門教育局長印

東京音樂學校長殿

學生生徒數調ニ關スル件

標記ニ關シ學徒動員上最近ノ適確ナル學生生徒數ヲ調査ノ必要有之
ニ付左記様式ニ依リ至急御調査ノ上本月十五日迄ニ速達便ヲ以テ御
回報相煩度

記

〇〇大學(校)

計	學部	
	學科	
	者在 數籍	一 學 年
	者就 數學	
	數見可動 込能員	
	者在 數籍	二 學 年
	者就 數學	
	數見可動 込能員	
	者在 數籍	三 學 年
	者就 數學	
	數見可動 込能員	
	者在 數籍	計
	者就 數學	
	數見可動 込能員	
	備考	

記入上ノ注意

- 一、本表ハ正科ノ學生生徒ニ付六月十日現在ヲ以テ調査スルコト
- 二、就學者數ハ休學者、長期缺席者等ヲ除キ記入スルコト
- 三、動員可能數(現在出動中ノ者ヲ含ム)ハ工場事業場、食糧増産等ニ動員シ得ザル學生生徒ヲ除キ記入スルコト
- 四、本調査ハ文科系學部學科ト理科系學部學科トヲ別紙トスルコト
- 五、本調査ハ學部、豫科、専門部各別紙トスルコト

發送六月十二日

昭和十九年六月十日起案

回 答 案

年 月 日

學 校 長

専門教育局長宛

學生生徒數調ニ關スル件回答

六月六日附御照會相成候首標ノ件別紙ノ通り及回答候也

記

東京音樂學校

科別	學年	一學年		二學年		三學年		四學年		計	備考
		在籍者數	就學者數	見込可動員數	在籍者數	就學者數	見込可動員數	在籍者數	就學者數		
邦樂科	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
師範科	女	38	13	38	12	35	24	34	10	164	97
	男	47	34	45	29	46	17	45	14	163	75
本科	女	25	7	25	6	24	5	21	17	99	28
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	96	26
邦樂科	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
師範科	女	23	4	23	3	21	8	20	7	99	28
	男	23	3	22	2	20	7	19	10	96	26
本科	女	48	11	48	9	46	7	46	7	159	66
	男	48	9	46	7	46	7	46	7	159	66

(手書き) (自昭和十八年度至昭和二十年 公文書綴 教務課)

動專八七號

昭和二十年三月十日

文部省専門教育局長印

文部省國民教育局長印

東京音樂學校長殿

「新規中等學校卒業生ノ勤勞動員繼續ニ關スル措置要綱」

ニ伴フ上級學校入學者ノ取扱ニ關スル件

昭和十九年十二月一日閣議決定相成タル「新規中等學校卒業生ノ勤勞動員繼續ニ關スル措置要綱」ニ依リ本年三月ノ中等學校卒業生ニ

シテ上級學校ニ進學スベキ者ニ付テハ農林水産關係へ上級學校進學者ヲ除キ本年六月末迄現在ノ作業地ニ於テ學徒勤勞ヲ繼續セシムルコトト相成タル處右ニ伴ヒ本年四月ノ高等專門學校入學者ノ取扱方ニ關シテハ左記ニ依リ措置相成度ニ付テハ右御了知ノ上之ガ實施ニ遺憾ナキヲ期セラレ度此段及通牒

記

一、農林水産（遠洋漁業科ニ限ル）關係ノ高等專門學校、青年師範學校農業科及ビ農業關係ノ教員養成諸學校入學者ノ取扱

例年ノ通入學セシムルコト

二、前項以外ノ高等專門學校（教員養成諸學校ヲ含ム）入學者ノ取扱

(一) 本年四月入學ニ關スル所定ノ諸手續ヲ爲サシメ高等專門學校生徒トシテ夫々出身中等學校ニ於ケル勤勞動員ヲ繼續シ七月一日ヲ目途トシ入學式ヲ行ヒ爾後ノ教育ニ付テハ能フ限り重點的教育ヲ實施シ學力ノ充實ニ努ムルコト

(二) 中等學校ニ於テ附設課程ヲ設クル場合ノ學徒ハ左記ニ依リ措置スルコト

(1) 本年六月末日迄高等專門學校ノ學徒トシテ現在出動先ノ動員ヲ繼續スルヲ以テ其迄ハ登校セシメザルコト

(2) 此ノ場合學徒ノ指導監督並教育訓練（教練ヲ含ム）ハ當該出身中等學校長ニ之ヲ委託シ同校附設課程進學者ト同一報國隊ノ一員トシテ取扱ハルルコト

中等學校ニ於ケル當該出動先ノ學徒全部ガ高等專門學校ニ進

學シタル場合ニハ附設課程ヲ設置シ得ラレザルモ、此ノ際ニ於テハ附設課程ニ準ジタル取扱ヲナスベキニ付留意ノコト

(3) 入學料及授業料ハ所定ノ通徵集シ報國實費ハ七月ニ於テ委託期間ノ月割額ヲ減額徵集スルコト

(4) 高等專門學校ハ委託學徒ノ（訓育委託費トシテ當該中等學校ニ對シ一人月金三圓ヲ支拂フコトトシ之ガ支拂方法ハ私立學校分ヲモ含メテ七月中ニ出身中等學校ヲ管理スル都道府縣ニ一括送付スルコト

(5) 委託學徒ニ對スル委託期間中ノ教育訓練（教練ヲ含ム）ニ付テハ出身中等學校學徒ニ準ジ實施スルコト

(6) 委託學徒ニ對スル委託期間中ノ成績狀況ハ七月以降ニ於テ中等學校長ヨリ報告セシメ當該學期、學年ノ成績評定ノ參考トナスコト

(7) 本項ニ該當スル學徒ノ委託期間中ノ服裝ハ物資不足ノ現狀況等ヲ考慮シ中等學校生徒ノ服裝ニ準ゼシムルコト

(三) 前項以外ノ學徒（附設課程ヲ設置セザル中等學校ノ卒業生、本年度以前ノ中等學校卒業生、試験檢定又ハ資格檢定ニ依ル者等）ハ左記ニ依リ措置スルコト

(1) 現ニ生産工場等ニ勤務シ居ル者ハ六月末日迄引續キ同一場所ニ勤務セシムルコト此ノ場合ニハ本人ヨリ豫メ届出セシムルコト

(2) 附設課程ヲ設置セザル中等學校ノ卒業生ニ在リテハ現在出動先ニ當該中等學校ノ下學年學徒出動中ノ場合ハ其ノ勤務指導ノ補助員トシテ勤務ヲ繼續セシムルヲ得ルコト、事情ニ依リ

右ニ依リ難キ者ハ(三)ノ(三)ニ依ルコト

(3)(1)及(2)以外ノ學徒(外地中等學校出身者ニシテ内地高等專門學校ニ入學シタル者ヲ含ム)ハ本年四月例年ノ通所定ノ期日ニ登校セシメ教授等ノ研究補助員又ハ校内諸作業ニ動員シ或ハ食糧増産其ノ他緊急事業ニ動員シ或ハ適宜補習教育ヲ行フ等ノ措置ヲ講ズルコト

本件ニ付テハ別途通牒アルベキコト

三、本件ハ學則ノ規定ニ拘ラズ實施スルコト

(和文タイプ)

(昭和二十年 公文書綴 教務課)

昭和二十年三月二十五日起案

昭和二十年度假入學許可並ニ諸注意文案ニ關スル件

標記ノ件別紙ノ通發送相成可然哉

依頼狀案

拜啓決戰下益々御清榮御奉上下ノ段奉賀候

扱^マテ貴校(某)四月一日附ヲ以テ當校生徒トシテ假入學許可致候

就テハ本省ヨリノ通牒ニ依リ、六月末日マデ本校生徒トシテ

貴校ニ於テ現在出勤先ノ動員ヲ繼續

勤務ニ從事セシムルコトニ相成候間校務御繁忙中

殊ニ恐縮ニ存ジ候ヘドモ指導監督等宜敷御願申上度此段及御依頼候

年月日

敬具

各中等學校長宛

學校長

假入學許可書

氏名

右者 昭和二十年四月一日ヲ以テ假入學ヲ許可ス。

追而假入學許可相成タルニ就テハ別紙學則・生徒心得並ニ左記各項熟讀ノ上本校生徒トシテノ矜持ヲモツテ生活スベシ。

記

一、入學式 七月一日午前十時ヨリ舉行ス、無斷缺席ノ場合ハ入學ヲ取消スコトアルベシ。

一、假入學許可相成タルニ就テハ各科トモ入學料金三圓、本科入學者ニアツテハ授業料第一期ハ金五十圓ヲ四月十八日限り會計課ニ納入スベシ。

報國團費七月以降ヨリ徵集ス。

一、別紙誓約書記入ノ上、本校生徒課ニ提出スベシ。

一、四月一日ヨリ六月末日マデ本校生徒トシテ現在出勤先ノ動員ヲ繼續シ出身中等學校ノ指揮監督ヲ受ケ勤務ニ従スルベシ。

一、附設課程ヲ有セザル中等學校並ニ本年度以前ノ中等學校卒業者ニシテ生産工場ニ勤務シ居ムモノハ引續キ六月末日マデ勤務スベシ。

コノ場合ハ本人ヨリソノ旨本校生徒課ニ届出ズベシ。

現在出身中等學校ノ出勤先ニ下學年ト共ニ勤務ニ従ズル場合モ右ニ同ジ

〔手書き〕（昭和二十年度 公文書綴 教務課）

規則・カリキュラムなどの改正は行われていない。

終戦前の資料として、五月二十日現在の師範科に関する生徒・職員の調査を掲載する。作成は十二月十三日と記されている。

昭和二十年十二月十三日作成

高等師範學校等ニ關スル調査

(昭和二十年五月二十日現在)

(一) 本校ニ關スル調査

一、生徒數

總計	師範科	學科 (科部別)	學年
		第一學年	第二學年
六三	六三	五六	三三一
五六	五六	二五	一七六
三三一	三三一	計	
二五	二五		
一七六	一七六		

二、外地及外國人生徒數

學 年	學 科 部 別	
	師範科	總計
第一學年	三 (鮮朝)	三
第二學年	一 (灣臺)	一
第三學年	○	○
第四學年	一 (民國華)	一
計	五	五

三、本年度入學狀況

朝鮮……三人
臺灣……一人
中華民國……一人

		種別		學科 (科部別)		總計	師範科	入學志願者及入學者・出身學校別員數	
外地	募集人員		三〇	三〇	三〇	總計	師範科	入學志願者及入學者・出身學校別員數	
	入學志願者數		一九八	一九八	一九八	總計	師範科		
	入學者數		六三	六三	六三	總計	師範科		
	入學志願者數		二	二	二	總計	師範科		
	入學者數		一	一	一	總計	師範科		
	入學志願者數		一	一	一	總計	師範科		
高女 ×三	高女 ×三	中學及高等女學校卒	入學志願者數	入學者數	入學志願者數	入學者數	總計	師範科	入學志願者及入學者・出身學校別員數
高女 ×三	高女 ×三	中學及高等女學校卒	入學志願者數	入學者數	入學志願者數	入學者數	總計	師範科	
一		一	一	一	一	一	一	一	入學志願者及入學者・出身學校別員數
〇		〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	

四、卒業者中 大學、研究所入學者數

總 計						卒 業 學 科	年 度 別 員 數
			研 究 科	其 ノ 他 大 學	文 理 科 大 學	種 別	
一					一	本 年 度 入 學 者 數	高 等 師 範 學 校 等 卒 業 年 度 別 員 數
一					一	昭 和 十 六 年 度	
					ナ シ	昭 和 十 八 年 度	

五、前年度半途退學者數

學年	(學科別)		
	師範科	總計	他ノ其
第一學年	一	一	病疾 戒懲 他ノ其
第二學年	一	一	病疾 戒懲 他ノ其
第三學年	一	一	病疾 戒懲 他ノ其
第四學年	一	一	病疾 戒懲 他ノ其
計	二	二	病疾 戒懲 他ノ其

六、職員擔任學科目並事務

擔任學科目並每週教授時數	官職名	氏名	備考
ピアノ	教授兼生徒主事	高折宮次	
ピアノ	教授兼生徒主事	川上きよ	
音楽史、音楽美學	教授	遠藤 宏	
ピアノ	右 同	福井直俊	
獨逸語	右 同	妹尾 幹	
ピアノ	教授兼生徒主事	宇佐美ため	
聲 樂	教授	木下 保	
作曲、指揮法	教授	橋本國彦	
作 曲	同	下總覺三	
聲 樂	同	城多又兵衛	應召中 未復巢
ピアノ	同	豐増 昇	
教育英語	同	藤 謙敬	
聲 樂	同	淺野千鶴子	
作 曲	同	細川 碧	

ピアノ	六	同	永井 進	
ピアノ	七	同	水谷達夫	
道 義		生徒主事兼教授	聲 壽夫	
庶務課		事務官	町田稻尾	
教務課		助教教授兼書記	永田 晴	
ピアノ	一二	助教教授	今井治郎	
圖書課		助教教授	金子 登	
生徒課		同	免束龍夫	
ピアノ	一〇	助教教授兼生徒主事補	黒澤愛子	
ピアノ	六	助教教授	宮内鎮代子	
聲 樂	一九	同	平原壽恵子	
ピアノ	七	助教教授兼生徒主事補	小田雪江	
ピアノ	一二	助教教授	中村ハマ	
聲 樂 一五、生徒課		書記兼助教教授	酒井 弘	
會計課		書 記	大柳金光	
庶務課		書 記	長谷川 基	
圖書課		書記兼助教教授	鈴木正三	未復巢
ピアノ 二、教務課		書 記	外狩伸一	
生徒課		書記兼生徒主事補	山本正人	
ヴァイオリン 五、生徒課		生徒主事補兼助教教授	岩崎吉三	
圖書課樂器掛		技 手	金谷武司	
圖書課		技 手 兼 書記	古川 太郎	

ピアノ	六	講師	萩原英一	
ピアノ	六	同	貫名美名彦	
聲樂	一二	同	長坂好子	
聲樂	一三	同	田中宣子	
ピアノ	一二	同	田中規矩士	
聲樂		教務囑託	柴田陸陸	應召中
體操	二	〃	天野ちよう	
舎監	〃	〃	小木曾佳苗	
生徒課	〃	事務囑託	橋本秀次	
庶務課		事務囑託	井出茂太	
庶務課	同		高橋磯三郎	
圖書課	事務囑託		小林安八	
會計課	同		市川和枝	
樂器掛	同		伊崎清七	

(手書き) (公文書綴 教務課 昭和二十年度)

以上

(六) 終戦後

昭和二十年度終戦後

昭和二十年八月十五日以降の関連文書を日付順に掲載する。

専門學校入學者檢定規程第十一條ニ依ル指定ノ件

専門學校入學者檢定規程第十一條ノ規程ニ依リ左記ノ者ヲ中等學校

卒業者ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ト指定ス

昭和二十年八月十五日

文部大臣 前田多門

記

陸軍幼年學校第三學年

陸軍經理學校豫科

海軍兵學校豫科及海軍經理學校豫科

海軍甲種飛行豫科練習生(中等學校第三學年修了以上ノ者)

昭和二十年八月十五日ニ於テ右諸學校ニ在學中ノ者ニシテ同日以後ノ修了者

但シ陸海軍諸學校入學前ニ在學セル中等學校ニ於テ右修了者ト同期ニ屬スルモノガ現ニ其ノ中等學校ニ在學スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

(手書き) (例規集 教務課 昭和十三年七月)

發專一二八號

昭和二十年八月廿八日

文部次官印

各地方總監

各地方長官

官公私立大學高等專門學校長

教員養成諸學校長

殿